

年 報

平成28年度

平成29年 5 月

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

序

山形県埋蔵文化財センターは、平成5年に財団法人として創設以来、また平成24年からは公益財団法人として、関係諸機関の御支援・御協力をいただきながら取り組みを進めてまいりました。本年度における当センターの事業については、計画した事業のすべてについて円滑に実施することができました。

その概要について申し上げますと、はじめに、調査事業においては、6遺跡7件の発掘調査と、延べ13遺跡の報告書作成のための整理作業を実施し、4冊の発掘調査報告書を刊行いたしました。

本県における近年の発掘調査の傾向は、県公共事業の減少が引き続き見られ、国による新直轄事業の高速交通網整備に伴う事業もピークを過ぎたことから、今後予想される高速道路の県境部分の整備や県の公共事業等の事業量を的確に把握しつつ、調査体制の整備に努めていかなければなりません。今後とも、責任ある発掘調査を基本とした調査研究に取り組んでまいります。

次に、普及啓発事業につきましては、諸事情により、今年度は大幅な事業縮小を余儀なくされました。そのため、例年好評をいただいております「埋蔵文化財センター参観デー『埋文まつり』」をはじめとするいくつかの事業の実施は、まことに残念ながら見合わせざるを得ませんでした。しかしながら、埋蔵文化財保護の重要性の周知や、埋蔵文化財を通して古代の人との心の交流の場を県民の皆さんに提供するという基本姿勢に変わりはなく、ホームページによる情報発信や調査遺跡における発掘調査説明会の開催のほか、ホームページ上での公開ではありましたが、広報誌『埋文やまがた』の発行などを通して、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さまにお知らせしてまいりました。また、職員を派遣しての講演や体験活動、調査研究発表等は、従来通り実施してまいりました。

埋蔵文化財センターでは、これからも「公益」という言葉の重みを職員一人ひとりが胸に刻み、次世代を担う子供達に地域の伝統文化の大切さを伝えるため、あるいは誇りと自信の持てる地域づくりの一助とするため、さまざまな機会を活用して、県民共有の文化遺産としての価値ある埋蔵文化財を後世に伝えて行けるよう、職員一同、一層研鑽を重ねていく所存であります。

平成29年3月31日

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長 廣瀬 渉

目 次

I. 管理運営概要

1. 沿 革	3
2. 組 織	
(1) 役員及び評議員	3
(2) 職制及び人員	4
(3) 組 織	4
(4) 職 員	5
3. 施 設	6

II. 事業概要

1. 調査業務	7
(1) 調査遺跡一覧	8
(2) 調査遺跡の概要	
上竹野遺跡(第2次)	10
山形城三の丸跡(第18次)	14
山形城三の丸跡(第19次)	18
八幡西遺跡	22
壇山古窯跡群(第9地点)	26
馳上遺跡(第8次)	28
元立北遺跡	32
2. 普及・啓発・研究等業務	
(1) 研修等	
①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣	34
②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣	34
(2) 普及啓発	
①センター公開事業	34
②考古学講座	35
③展示協力	35
④来所者	36
⑤調査説明会	38
⑥職員派遣等	39
⑦資料貸出	42
⑧資料掲載許可	43
⑨出版物	44
⑩ホームページ	44
(3) 情報処理	
収蔵図書データベース	44

I 管理運営概要

1. 沿革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今日まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大切です。

山形県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、平成5年4月に山形県の出資によって「財団法人」として設立され、平成24年度には「公益財団法人」に移行しました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、

1. 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究
2. 埋蔵文化財の発掘調査
3. 埋蔵文化財の活用と保護思想の普及

の三つを基本とした各種事業を推進しております。

平成27年度に新たに策定された第6次山形県教育振興計画では、『人間力にあふれ、山形の未来をひらく人づくり』を基本目標に掲げ、『「いのち」をつなぐ人』、『学び続ける人』、『地域とつながる人』の三つを目指す人間像としています。埋蔵文化財については、『主要施策15 山形の宝の保存活用・継承』の中で、その保護と活用、ならびに（公財）山形県埋蔵文化財センターとの連携の強化が謳われています。

近年、当センターでは、埋蔵文化財の教育的価値を認識してもらう視点に立って、「発掘調査速報会」や「ホームページによる情報提供」「遺跡(発掘現場)見学や研修の受け入れ」などの普及啓発活動についても力を注いでおります。

2. 組織

(1) 役員及び評議員

役員

理事長	廣瀬 渉	山形県教育委員会教育長（平成28年4月1日就任）
専務理事	三浦 秋夫	財団常勤役員
理事	渋谷 孝雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 館長
理事	松田 洋一	公益財団法人山形県生涯学習文化財団 専務理事
理事	渡邊 弘明	公益社団法人山形県私立学校総連合会 常務理事
理事	大場 秀樹	山形県教育庁文化財・生涯学習課 課長
監事	椰野 哲郎	税理士有資格者
監事	佐藤 浩之	山形県教育庁総務課 課長

評議員	小野 忍	酒田市文化財保護推進員
評議員	角屋由美子	公益財団法人米沢上杉文化振興財団 学芸主査
評議員	佐藤 庄一	山形考古学会 会長
評議員	大類 誠	尾花沢市文化財保護委員
評議員	草苺 信博	特別法人山形県住宅供給公社 専務理事
評議員	柴田 和敏	山形県県土整備部道路整備課 課長
評議員	山平 吉弘	山形県農林水産部農村整備課 課長

(2) 職制及び人員

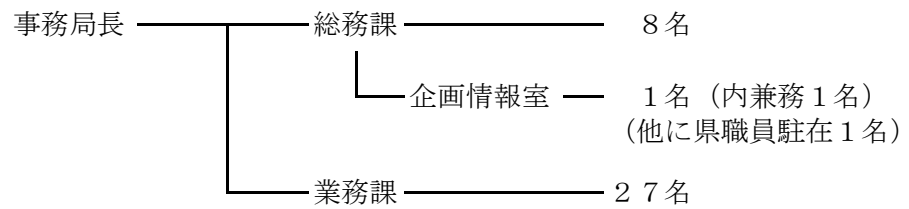
事務局長	1名
課長	1名
室長	(1名)
主幹	1名
課長補佐	(1名)
調査研究専門員	3名
主査	2名
専門調査研究員	3名
主任調査研究員	6名
調査研究員	1名
調査員	13名
事務員	4名
計	35名

(3) 組織

役員（理事会）

理事長（非常勤） — 専務理事（常勤）

職員（事務局）



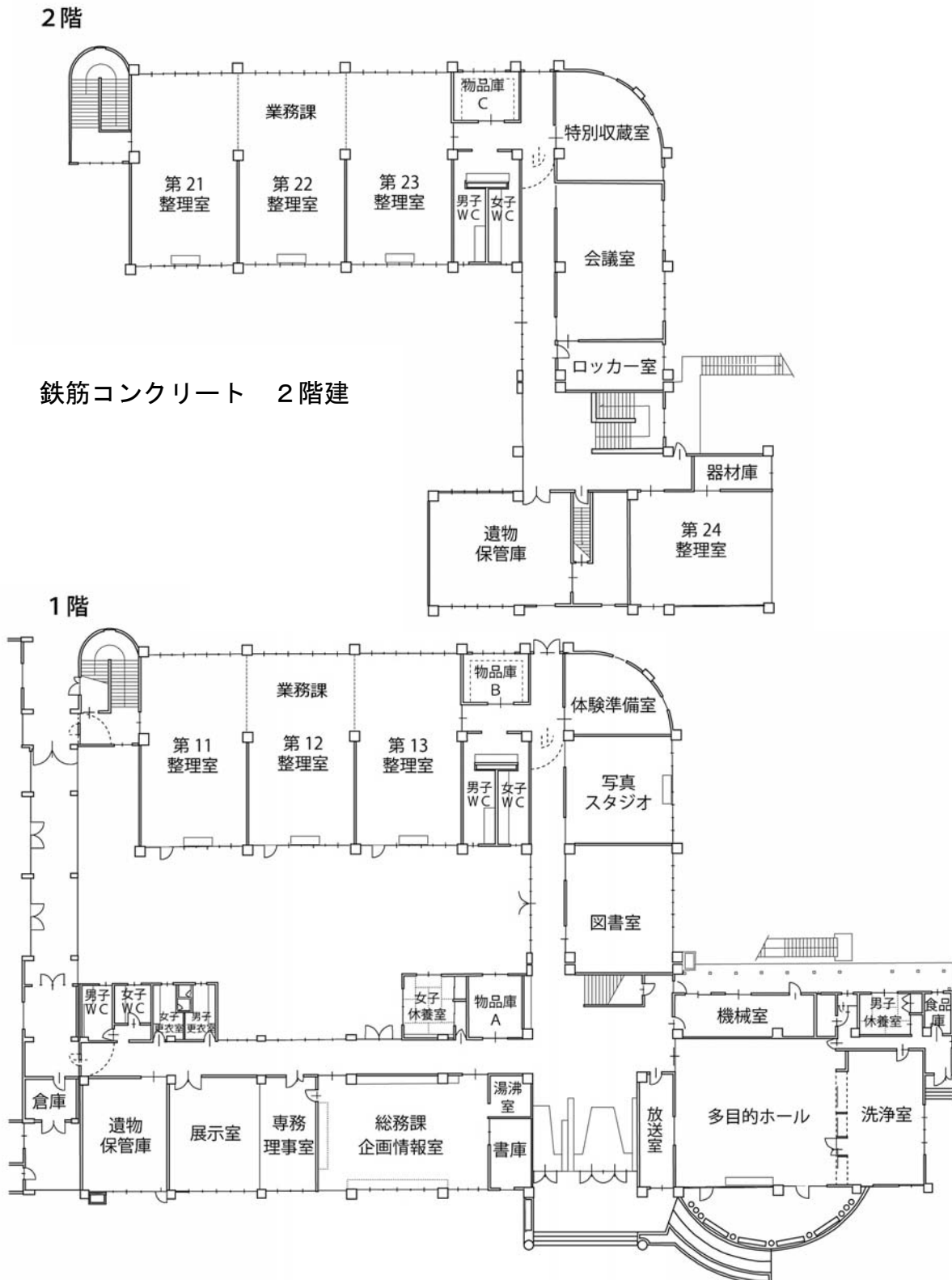
(4) 職員

課名	職名	氏名	所属
総務課	事務局長 (兼)総務課長、企画情報室長	黒坂 雅人	財団職員
	企画調整主査	原田 英明	財団職員
	総務主査	高桑 弘美	財団職員
	課付専門調査研究員	植松 暁彦	財団職員(震災復興派遣)
	事務員	中川未来絵	
	事務員	林 浩子	
	事務員	片平 玲子	
	事務員	板垣美智子	
	事務員	樋口 愛美	(9月30日退職)
	事務補助員	渡邊 睦子	(5月31日退職)
企画情報室	駐在(埋蔵文化財調査研究員)	(向田 明夫)	(教育庁 文化財・生涯学習課)
業務課	課長	伊藤 邦弘	財団職員
	調整主幹(兼)課長補佐	須賀井新人	財団職員
	調査研究専門員	齊藤 主税	財団職員
	調査研究専門員	氏家 信行	財団職員
	調査研究専門員	小林 圭一	財団職員
	専門調査研究員	齋藤 健	財団職員
	専門調査研究員	菅原 哲文	財団職員
	主任調査研究員	高桑 登	財団職員
	主任調査研究員	水戸部秀樹	財団職員
	主任調査研究員	大場 正善	財団職員
	主任調査研究員	菊池 玄輝	財団職員
	主任調査研究員	天本 昌希	財団職員
	主任調査研究員	草野 潤平	財団職員
	調査研究員	渡辺 和行	財団職員
	調査員	高木 茜	
	調査員	五十嵐 萌	
	調査員	後藤枝里子	
	調査員	山田めぐみ	
	調査員	板橋 龍	
	調査員	森谷 康平	
	調査員	阿部 明彦	
	調査員	木村 恵理	
	調査員	安達 将行	
	調査員	吉田 満	
	調査員	長谷川大旗	(12月4日退職)
	調査員	三浦 一樹	
調査員	長澤 友明		
調査員	色摩 優吾		

3. 施設

公益財団法人山形県埋蔵文化財センターは、平成24年11月末まで、山形県上山市弁天二丁目15番1号にて業務を行ってきたが、施設の老朽化と耐震構造上の問題のため、同年12月1日より、山形県上山市中山字壁屋敷5608番地に移転した。

現在当所の施設は、以下の通りとなる。



II 事業概要

1. 調査業務

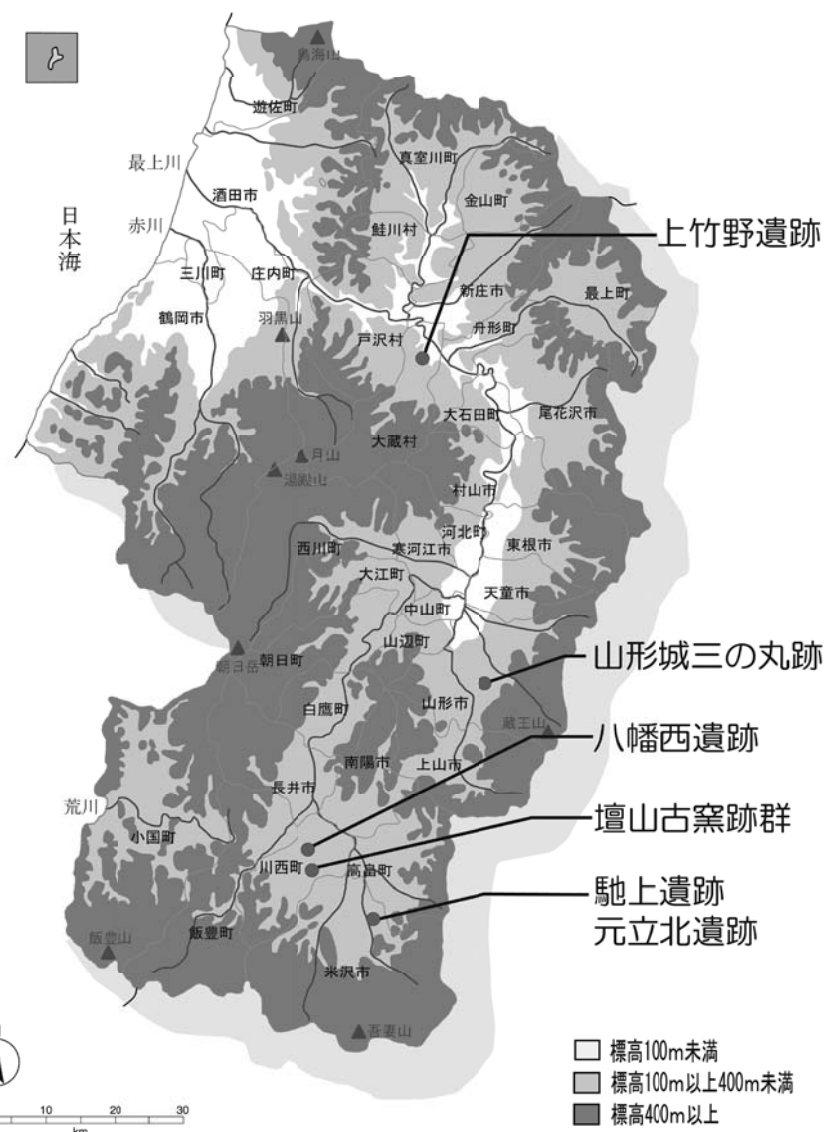
平成 28 年度は、国土交通省、東日本高速道路(株)、山形県および米沢市、川西町から委託を受け、道路建設と道の駅建設に先だっの発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は 6 遺跡 7 件について行い、総調査面積は 24,319 m²になります。出土品は、土器等 337 箱が出土文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は延べ 13 遺跡について実施し、そのうち 4 遺跡 4 冊の発掘調査報告書を刊行しました。

平成28年度 発掘調査遺跡

- 1 うわたけの 上竹野遺跡(第 2 次)
- 2 やまがたじょう 山形城三の丸跡(第 18・19 次)
- 3 やわたにし 八幡西遺跡
- 4 だんやま 壇山古窯跡群(第 9 地点)
- 5 はせがみ 馳上遺跡(第 8 次)
- 6 もとだてきた 元立北遺跡



※本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概要の報告であり、発掘調査報告書の刊行をもって本報告となります。

(1) 調査遺跡一覧

NO.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種別	調査期間
1	上竹野遺跡 (第2次)	大蔵村	縄文・弥生	集落跡	6月27日～10月20日
2	山形城三の丸跡 (第19次)	山形市	奈良・平安 中世・近世	集落跡 城館跡	6月13日～9月1日
3	山形城三の丸跡 (第18次)	山形市	奈良・平安 中世・近世	集落跡 城館跡	6月1日～9月30日
4	八幡西遺跡	川西町	古代～近代	集落跡	5月16日～12月16日
5	馳上遺跡 (第8次)	米沢市	古墳～中世	集落跡	4月25日～11月11日
	元立北遺跡	米沢市	古墳・平安	集落跡	4月25日～7月13日
6	壇山古窯跡群 (第9地点)	川西町	縄文・平安	窯跡	5月9日～7月7日
7	馳上遺跡 (第2～4・6次)	米沢市	古墳 奈良・平安	集落跡	
8	八反遺跡 (第1～3次)	東根市	奈良・平安 中世	集落跡 墓跡	
9	蟬田遺跡 (第1・2次)	村山市	奈良・平安	集落跡	
10	松橋遺跡 (第1・2次)	村山市	奈良・平安 中世	集落跡	
11	羽黒神社西遺跡 (第1・2次)	村山市	縄文・平安	集落跡	
12	押出遺跡 (第6次)	高畠町	縄文	集落跡	

調査面積 :平方m	文化財認 定数:箱	起因事業<委託者>	業務内容			調査経費 :円
			発掘	整理	報告書	
1,469	85	一般国道458号道路改良<県土整備部>	○	○	—	70,628,760
311	21	都市計画道路事業3・2・5号旅籠町八日町線<県土整備部>	○	○	—	32,523,000
650	20	一般国道112号霞城改良<国土交通省>	○	○	—	52,264,000
7,000	50	一般国道113号梨郷道路<国土交通省>	○	○	—	116,402,000
13,489	80	(仮称)道の駅よねざわ、主要地方道米沢高畠線 道路改築事業<米沢市・県土整備部>	○	○	—	163,050,894
1,000	11					
400	70	町道虚空蔵山西線道路改良事業<川西町>	○	○	○	23,416,560
		東北中央自動車道(米沢～米沢北)<国土交通省>	—	○	○	28,663,200
		東北中央自動車道(東根～尾花沢)<国土交通省>	—	○	—	40,732,200
		東北中央自動車道(東根～尾花沢)<国土交通省>	—	○	○	39,646,800
		東北中央自動車道(東根～尾花沢)<国土交通省>	—	○	—	14,893,200
		東北中央自動車道(東根～尾花沢)<国土交通省>	—	○	—	39,495,600
		東北中央自動車道(南陽高畠～山形上山)に係る 付け替え水路工事<東日本高速道路(株)>	—	○	○	50,203,800
24,319	337					671,920,014

(2) 調査遺跡の概要

うわたけの 上竹野遺跡 (第2次)

遺跡番号	365-004
調査回数	第2次
所在地	山形県最上郡大蔵村清水字上竹野
北緯・東経	38度41分27秒・140度13分43秒
調査委託者	最上総合支庁建設部道路計画課
起因事業	一般国道458号道路改良工事
調査面積	1,469㎡
受託期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
現地調査	平成28年6月27日～10月20日
調査担当者	菅原哲文(現場責任者)・三浦一樹・長澤友明・阿部明彦
調査協力	大蔵村教育委員会・地域整備課
遺跡種別	集落跡
時代	縄文・弥生
遺構	竪穴住居跡・集石遺構・土器埋設遺構・土坑・柱穴・捨て場・性格不明遺構
遺物	縄文土器・弥生土器・土製品・石器・石製品 (文化財認定箱数:85箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

上竹野遺跡は、大蔵村清水字上竹野に所在する。最上川に合流する銅山川左岸の段丘上に立地し、標高は約70mを測る。当遺跡は、昭和29年に山形大学を中心とした発掘調査が行われており、縄文時代終末から弥生時代を中心とする遺跡として知られている。周辺の遺跡では、南東へ約100mの位置に平成28年に新規登録された縄文中期末を中心とする上竹野2遺跡、北東約750mの位置に縄文中期の白須賀遺跡が位置する。

当遺跡は、平成27年に第1次調査を実施し、今年度

は第2次調査である。昨年から継続して調査を行う1・2・4区と、国道458号線の東側が新たに遺跡範囲に含まれることとなったため、5区を設定した(図1)。

遺構と遺物

縄文時代と弥生時代の遺構が確認されたが、ほとんどは弥生時代である。主な遺構であるが、弥生時代を中心

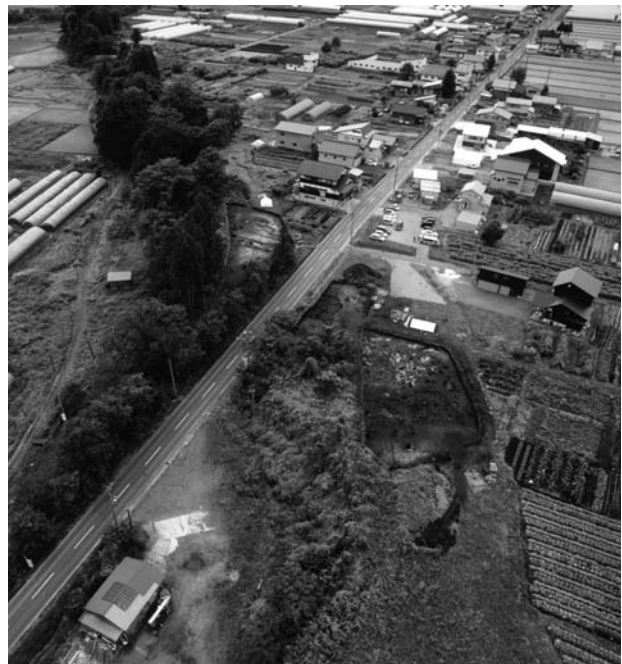


写真1 調査区全景(北から)

とする竪穴住居跡6棟、捨て場1カ所、土器埋設遺構、土坑、集石遺構、柱穴などが確認された(図2参照)。

2・4区では、住居跡が集中して検出された(写真2)。1次調査で確認されていたST202竪穴住居跡は、床面とその下の精査を行った。直径約9m、5条の周溝や2カ所の炉跡、柱穴が確認された(写真3)。4回以上にわたる拡張や建て替えが推定される。北東すぐにはST801竪穴住居跡が確認された。直径は約7~8m、支柱穴は4本、中央に地床炉を備える。その西隣にST808竪穴住居跡が確認された(写真4)。残り2分の1は事業区外となる。南側は岩盤を掘り込んで構築しており、地床炉や周溝、柱穴が確認された。直径は約6mである。その他、部分的な検出の住居跡2棟が確認された。

1区北側に広がるSF136捨て場からは弥生時代と縄文時代後期前葉の遺物が出土した。捨て場の下からは、円礫を楕円状に配置したSX315集石遺構、ST193竪穴住居跡、土坑、柱穴などが確認された。ST193は、直径約6mほどで中央に石囲炉を備える。弥生時代に帰属するものと思われる。

1区の南側には、土坑と柱穴群が分布する。弥生時代のフラスコ状土坑も確認されている(写真6)。柱穴群

は配列に規則性はないものと思われる。

5区は、調査区中央の東壁沿いに土坑群が検出され、北端の段丘縁辺近くには弥生時代の再葬墓と考えられる土器埋設遺構群や墓壙群が分布する(写真7)。埋設土器は9カ所の合計11基が確認された。SK513では壺を2個体並べて埋設する(写真8)。SK514では大型の壺に鉢をかぶせた^{あわせぐち}合口土器棺が2カ所埋設されていた(写真9)。楕円形の土壙墓と思われるSK516は、埋設土器の他に、底面にベンガラと思われる赤色顔料の散布が認められた。SK523は副葬品としてヒスイ製の管玉が出土した。

出土した遺物であるが、弥生土器と石器が中心である。赤彩された土器が比較的多く認められた。土偶が2点出土し、刺突を体部全体に施す刺突文土偶や(写真10)、石剣などの祭祀用の遺物も出土している。

まとめ

調査の結果、弥生時代前期から中期初め頃を中心とする当遺跡において、住居跡が集中する居住域、埋設土器や土坑で構成される墓域、捨て場、土坑や柱穴が集中する区域など、弥生時代の集落の構成がより明らかとなる事例となった。また、合口土器棺を用いた弥生時代前期を主とする再葬墓群が確認されたことは注目される。



写真2 2・4区の弥生時代竪穴住居跡群(北西から)

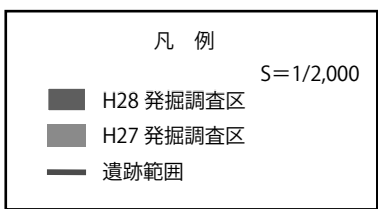
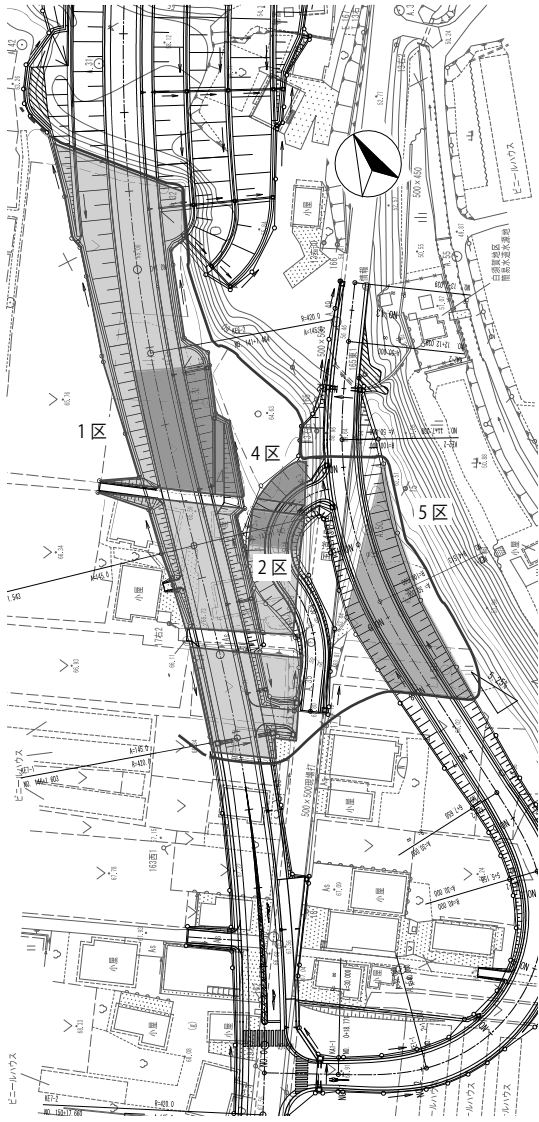


図1 調査区概要図

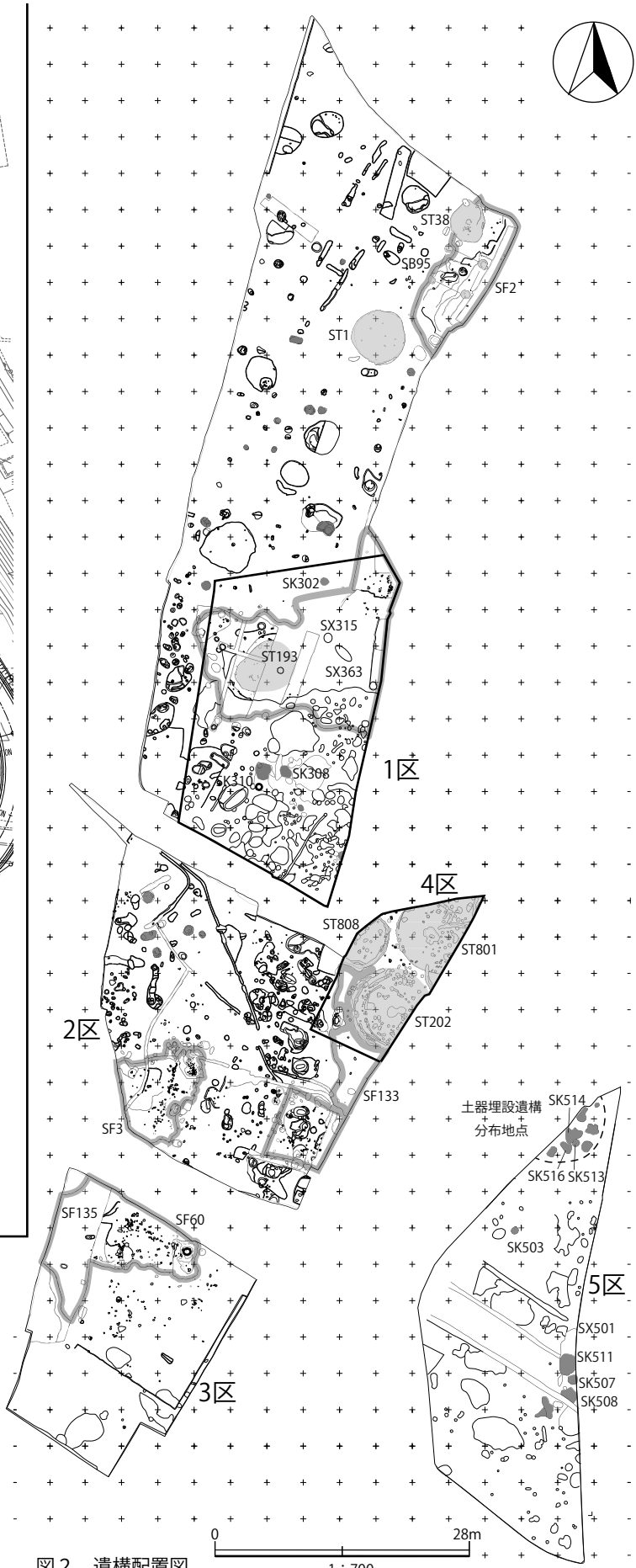
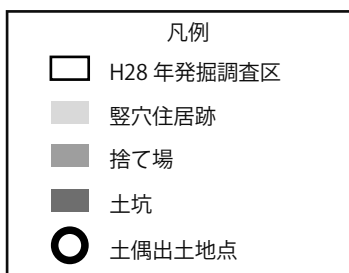


図2 遺構配置図



写真3 ST202 竪穴住居跡完掘状況 (北西から)



写真4 ST808 竪穴住居跡完掘状況 (北東から)

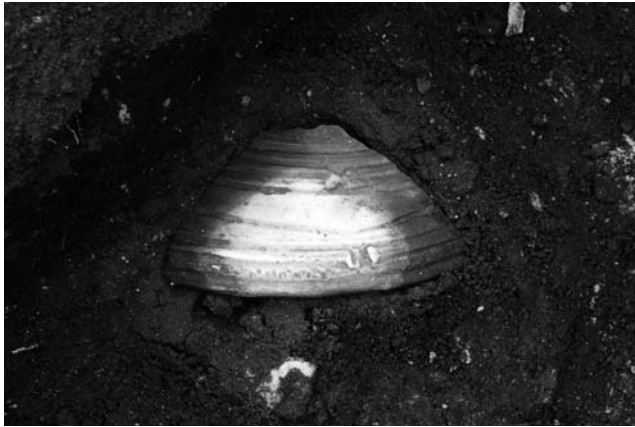


写真5 ST808 竪穴住居跡弥生土器出土状況



写真6 SK302 土坑土器出土状況 (西から)



写真7 5区の埋設土器群 (南から)



写真8 5区SK513 土器埋設遺構 (南から)



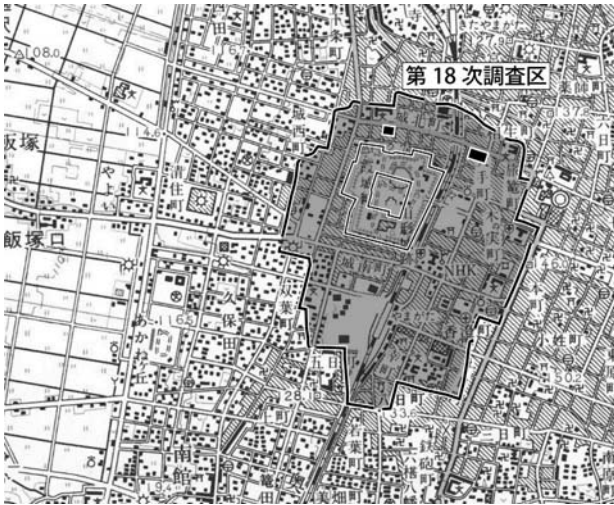
写真9 5区SK514 土器埋設遺構 (北から)



写真10 1区SK310 土偶出土状況

やまがたじょうさんのまるあと
山形城三の丸跡 (第 18 次)

遺跡番号 201-003
調査回数 第 18 次
所在地 山形県山形市城北町・大手町
北緯・東経 38 度 15 分 29 秒・140 度 20 分 5 秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 一般国道 112 号霞城改良事業
調査面積 650 m²
受託期間 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
現地調査 平成 28 年 6 月 1 日～9 月 30 日
調査担当者 小林圭一 (現場責任者)・高木茜
調査協力 山形市上下水道部・山形市教育委員会・山形県教育庁村山教育事務所
遺跡種別 集落跡・城館跡
時代 奈良時代・平安時代・中世・近世
遺構 溝跡・土坑・柱穴・井戸跡・河川跡
遺物 土師器・須恵器・陶磁器・瓦 (文化財認定箱数：20 箱)



遺跡位置図 (1 : 50,000)

調査の概要

山形城三の丸跡は、霞城公園のある山形城 (本丸・二の丸) を取り囲む東西約 1.6 km、南北約 2 km の広大な城館跡で、文禄・慶長年間 (1592 ~ 1615 年) に最上氏第 11 代当主の最上義光^{よしあき}が、三重の堀を構えた城郭として整備したと言われおり、国内では 5 番目の広さで、奥羽地方では最大の城であった。しかし最上氏は元和 8 年 (1622 年) に第 13 代義俊^{よしとし}が改易され、それ以降居氏から水野氏まで藩主が転封・入部を繰り返す、石高も 57 万石から 5 万石まで削減され、広大な山形城を維持

することが困難となり、手入れが行き届かず、幕末期の水野氏 5 万石時代には三の丸のほとんどが水田や畑になっていたと言われている。

今回の発掘調査は、国道 112 号の拡幅工事に起因するもので、平成 23 年度の第 9 次調査、24 年度の第 11 次調査、25 年度の第 13 次調査、26 年度の第 14 次、27 年度の第 16 次に続いて実施されたもので、国道 112 号に沿った区域を市街地の区画毎に 2 箇所の調査区 (J・P 区) に分けて調査を実施した。

遺構と遺物

今回の調査では、奈良・平安時代から近世・近代まで、各時代の遺構や遺物が検出され、人々がこの地に長い期間にわたって暮らしてきた様子が判明した。

遺構が最も多く検出されたのは、P 区とした大手町の調査区で、近世から近代にかけての溝跡や土坑などが検出され、さらにその下位からは、奈良時代の竪穴住居跡も見つかった。また城北町の J 区では池跡と思われる石を敷設した大きな掘り込み施設や石を組んだ井戸跡などが検出された。

遺物としては、近世の陶磁器類や瓦類が多く出土したが、P 区の土坑 (SK2514) からは江戸時代中期頃の陶

磁器がまとまって出土した。またP区では、8世紀前半に位置づけられる土師器等も多く出土した。

まとめ

江戸時代には武家屋敷となっていた三の丸一带は、古代から既にある程度の規模の集落が存在しており、そうした集落を基盤にして城下町が形成され、近代の山形市街地の発展につながったと考えられる。これまで調査した三の丸の北側では、最上氏時代の16世紀末～17世

紀の遺物が比較的多く出土したことから、この地域が比較的古い時期に田畑となったため、後世の開発があまり進まなかったと考えられる。馬見ヶ崎川の扇状地の形成により、土砂が厚く堆積したため、遺構や遺物が比較的良好な状態で残存したと推定され、三の丸の範囲内でも、場所によって後世の土地利用に差異があったことを示している。



写真1 P-4区全景



写真2 P-4区堅穴住居跡(古代)調査状況

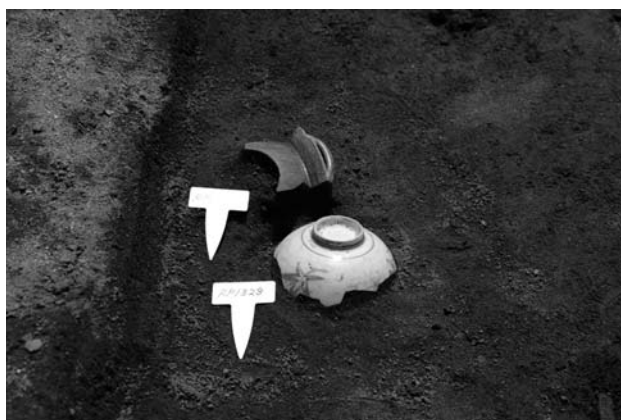


写真3 P-4区土坑(SK2514)遺物出土状況



写真4 J-5区全景



写真5 J-5区土坑池跡調査状況



写真6 J-5区石組み井戸跡調査状況

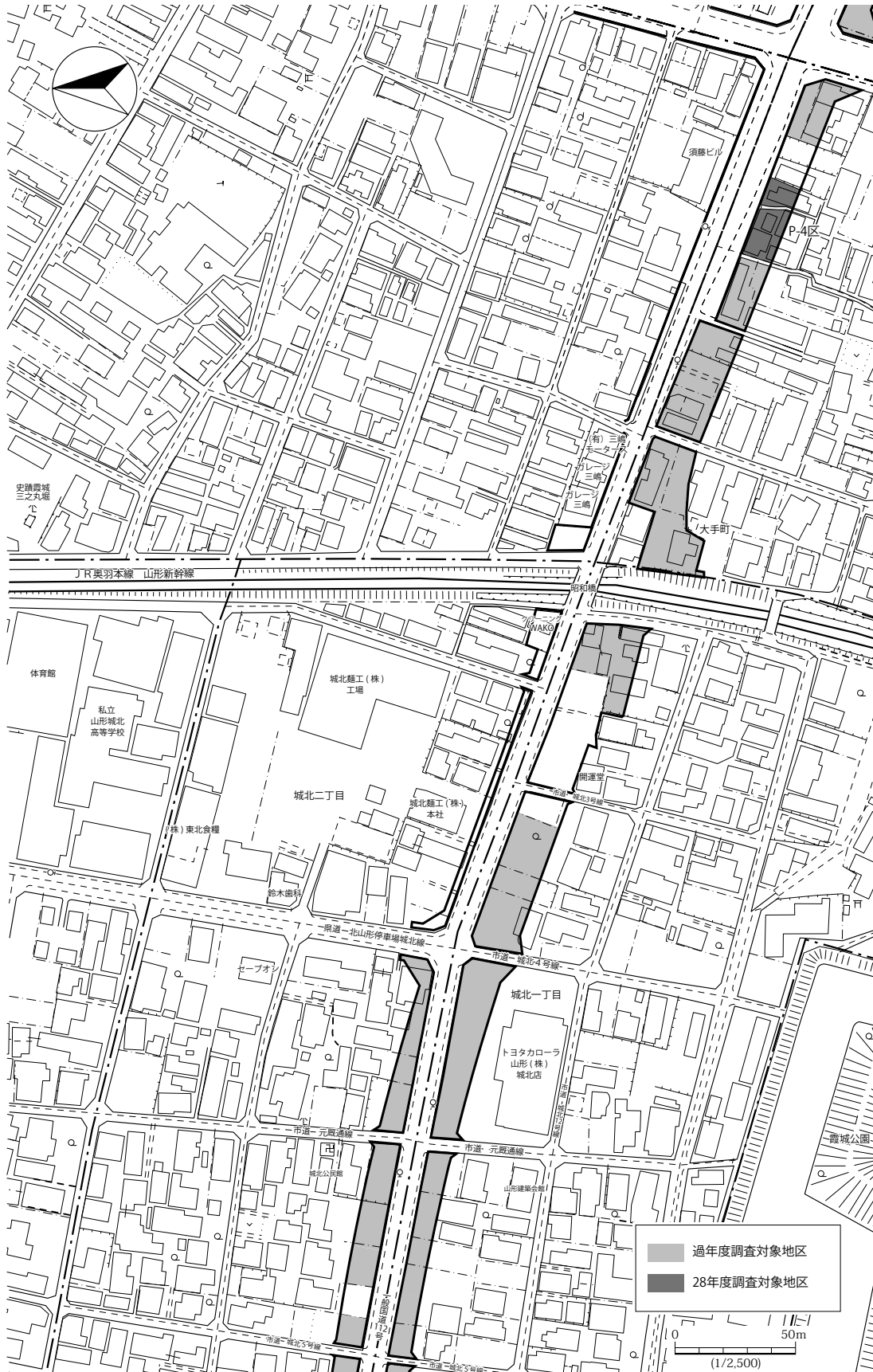


図1 調査区概要図 (S=1:2500)

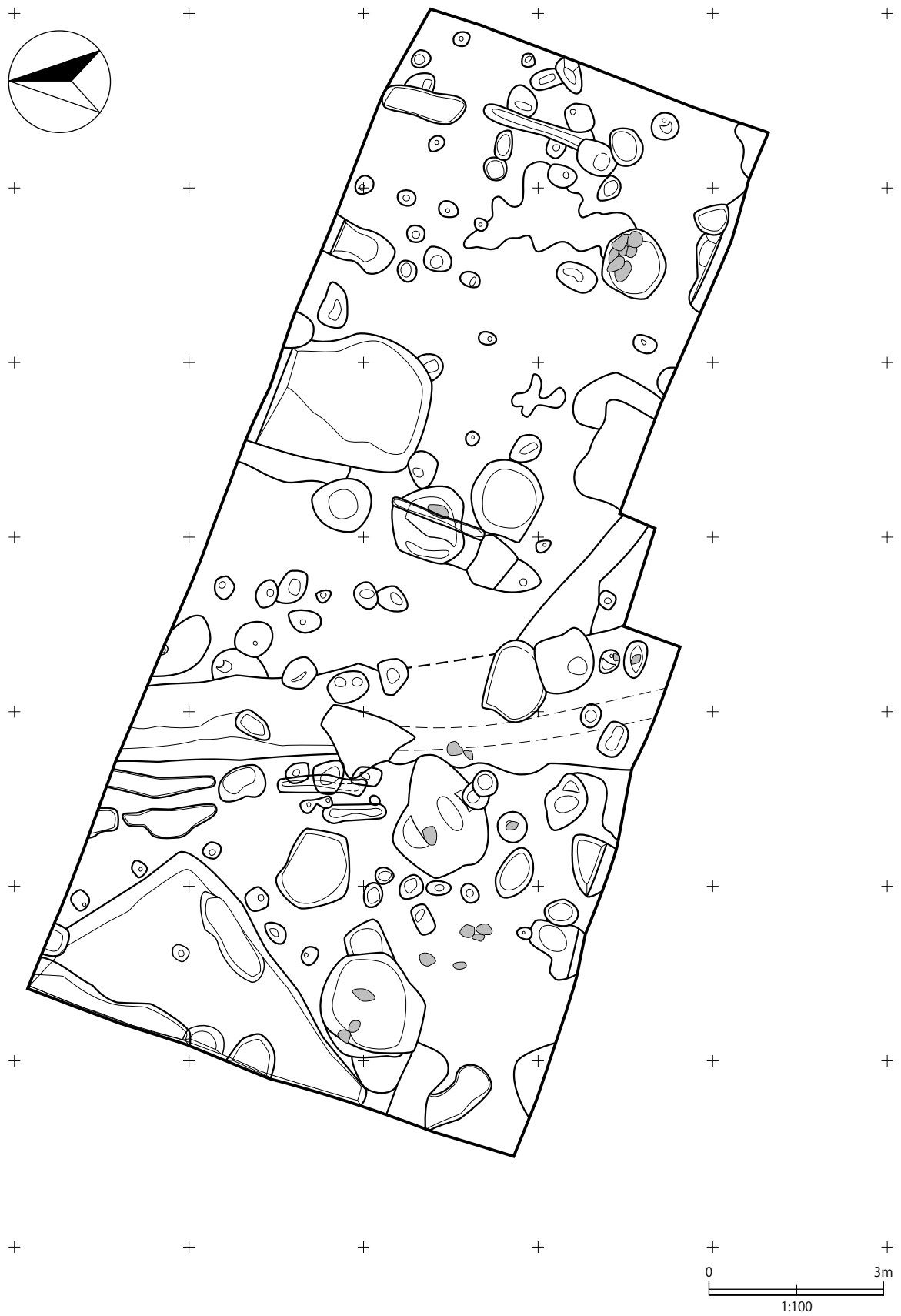


图2 P-4区遺構配置図 (S=1:100)

やまがたじょうさんのまるあと
山形城三の丸跡 (第 19 次)

遺跡番号 201-003
調査回数 第 19 次
所在地 山形県山形市旅籠町他
北緯・東経 38 度 42 分 02 秒・140 度 56 分 02 秒
調査委託者 山形県村山総合支庁建設部都市計画課
調査原因 山形広域都市計画道路事業 3・2・5 号旅籠町八日町線 (山形市七日町地内)
調査面積 311 m²
受託期間 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
現地調査 平成 28 年 6 月 13 日～9 月 1 日
調査担当者 齋藤健 (調査主任)・色摩優吾
調査協力 山形市教育委員会、山形県教育長村山教育事務所
遺跡種別 城館跡
時代 中世・近世
遺構 土坑・ピット・溝跡・石組
遺物 土師器・陶磁器・金属製品 (文化財認定箱数: 21 箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

山形城は、馬見ヶ崎川扇状地に 14 世紀後半に最上氏^{もがみ}の始祖斯波兼頼^{しばかねより}により築かれたとされ、代々最上氏が居城としてきた。17 世紀初頭には、最上義光^{よしあき}により 57 万石の大名の居城として相応しい規模の近世城郭として三の丸が拡張され、現在の山形市街地の原型となった。

しかし、義光の死後に発生した御家騒動により最上氏は改易される。その後入封した鳥居氏は馬見ヶ崎川の流路変更工事や山形五堰^{ごせき}の整備、二ノ丸の大規模な改修を

行い、現在の姿が完成された。

17 世紀末以降山形藩は藩主が短期間のうちに度々変わり石高も徐々に減る。このことから、広大な城の維持は困難となり荒廃する。18 世紀後半の秋元氏入封時には、本丸は更地となり二の丸内も小規模な建物が散見するだけで、藩主の屋敷は二の丸大手門の外に置かれた。藩士の住居も三の丸東半分にとめられ、三の丸の大部分は農地となった。城郭の衰退に反比例し、城下町は紅花をはじめとする特産品を扱う富裕な商人が集住していたことや出羽三山参詣の拠点として大いに栄える。

山形城三の丸には 11 の口(門)があった。現在の^{さいせいがん}済生館病院東側にあった七日町口は大手門として扱われた。七日町口内から二の丸大門までの道沿いには、18 世紀前半までは重臣の屋敷が立ち並び、幕末の水野時代でも家臣の屋敷が道沿いに立ち並んでいた。

明治維新により山形城は廃城となり、三の丸の堀や土塁の多くは撤去され、三の丸内にも庶民が住居を構え市街地化が進み、三の丸七日町口大手門跡には済生館病院が建設された。それに伴い、新道を建設する新しい都市計画も実施される。今回の調査起因事業である旅籠町八日町線^{はたごまち}も、この時期に作られた道路である。

しかし、モータリゼーションの発達により交通量が増

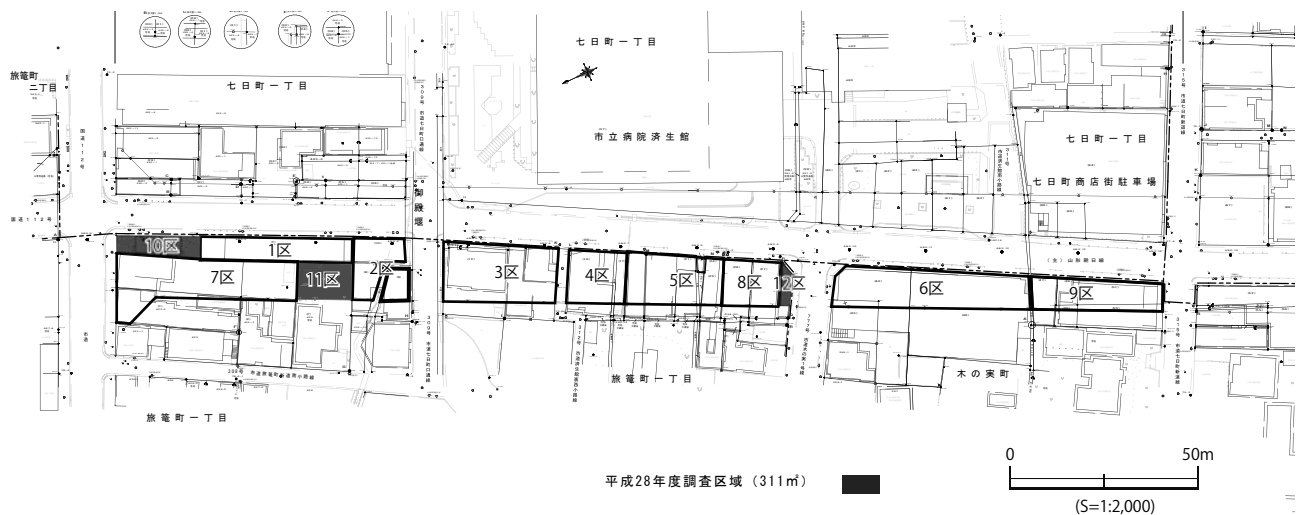


図1 調査区概要図



写真1 10区完掘状況（南西から）



写真2 10区SK13土坑完掘状況（北から）

大し、市街地での交通の停滞や事故の危険性が指摘されるようになる。そのため、幹線街路の利便性を高めるために山形広域都市計画道路事業が計画され、その一環として旅籠町八日町線を拡幅することとなり、三の丸跡の発掘調査を実施した。事業区内、27年度は1,873㎡、28年度は1,425㎡、今年度は311㎡を現地調査した。

遺構と遺物

今年度は、北から10、11、12区の地区の合計311㎡を調査した。10、11区は三の丸外の町家地区であり、12区が三の丸内部の武家屋敷地区である。

10区は、以前建っていたタクシー会社の基礎工事によりほとんど削平を受けていた。一部に近現代のものと思われる大量の焼土と炭化物を埋め戻した方形のSK13土坑を検出したものの、年代を特定できる遺物は出土しなかった。土坑は、崩落防止のために壁面に杭が刺された跡が有り、木製の壁材を固定していた。また、その土坑からは、鉾滓も多く出土したが、近世以降付近に鍛冶、

鋳物などの営業が確認できず、由来が不明である。

11区には樹齢70年ほどのもみの木があった。目立った遺構は検出されず、戦時中に作られた家庭用のSK07防空壕跡が検出された。また、堀跡である2区との境の調査区南側から少なくとも二段積まれた石組が検出された。堀の外には、秋元、水野時代の絵図を見ると牢獄があり、明治初期まで使用されていた。

12区は昨年度調査した8区の南隣りである。調査区が狭かったこともあり、目立った遺構は検出されなかったが、東壁際のピットから、江戸後期の陶磁器片が、南側の土坑からかわらけが出土した。また、文字瓦片も出土した。

まとめ

今年度の調査は10、11、12区の311㎡を対象にして実施した。これで三年度に渡る一期工区の現地調査は終了した。今年度のみでなく三年度に渡る調査の成果を簡潔にまとめる。



写真3 11区完掘状況(北北東から)



写真4 SK07防空壕検出状況(北北東から)



写真5 SK07防空壕完掘状況(北北東から)



写真6 SG02壕跡出土甕(北から)

2区は三の丸の堀跡で、北側の法面は11区との境界で検出できた。堀の規模は幅14mほど、深さ2mほどで、上部には二段の石組が残っていたが堀は素掘りで底面が自然堆積の礫層に達していた。石組は本来もう少し高かった可能性もある。堀は近代以降の瓦礫を含む土で埋め立てられていた。横町口と十日町口に近しい村山保健所敷地内の調査では堀跡の深さは8mあまりに達していたが、山形第七小学校敷地内で見つかった堀跡は今回の調査とほぼ同規模であり、三の丸の堀は門の付近だけ大規模であった可能性がある。

堀の北側の1、7、10、11区は城外であり、三の丸の構築後に町場として整備されていた。また、秋元時代以降には藩の牢獄が置かれていたことも絵図より判明している。1、7区からは近世陶磁器を伴う廃棄土坑が検出されている。また、7区からは中世の可能性が高い竪穴建物跡も検出された。11区からは戦時中の防空壕が検出されている。

2区と3区間の市道は、近世三の丸の土塁であった

と推測される。明治初年に堀を埋め立てるために崩されて、土地の区画整理で道路化されたとみられる。

3区から南は、近世は藩の有力家臣の武家屋敷が立ち並んでいた区域である。3区と4区、6区は、鉄筋コンクリート建物の基礎により激しい掘削を受けて、遺構遺物の残存状況が非常に悪かった。

5区と8区には、近世の井戸跡やピット、廃棄土坑の他に幅4m、深さ1mほどの区画溝跡を検出している。市教委が実施した^{ふたばちょう}双葉町遺跡で検出された三の丸構築以前とみられる大型区画溝と極めて酷似しており、時期も性格も同じものである可能性が高い。また、同時期と思われる鉾澤が土坑より大量に出土した。

9区も掘削を受けて遺構の残存状況は悪かったが、中世と思われる火葬墓が検出された。

これら3年度に及ぶ調査の成果を、今後整理作業を行い報告書にまとめて刊行する。



写真7 SG02 堀跡北壁石組検出状況 (北東から)

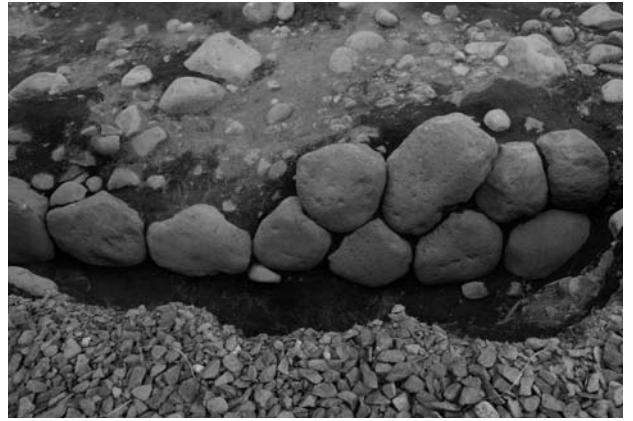


写真8 SG02 堀跡北壁石組 (南南西から)



写真9 12区完掘状況 (北北西から)



写真10 12区出土かわらけ (北から)



写真11 12区出土かわらけ (北西から)



写真12 12区出土文字瓦 (北から)



写真13 12区出土磁器碗 (北北西から)

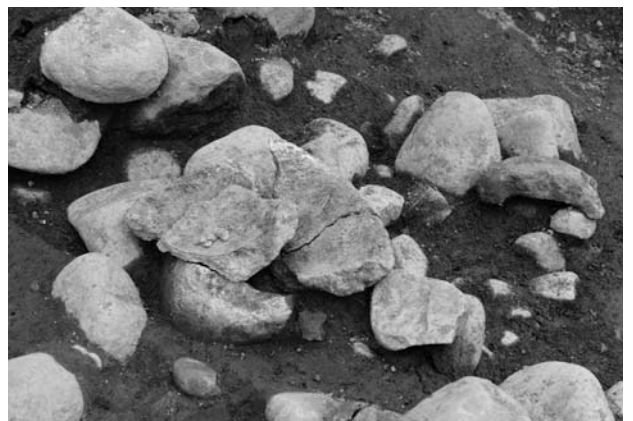
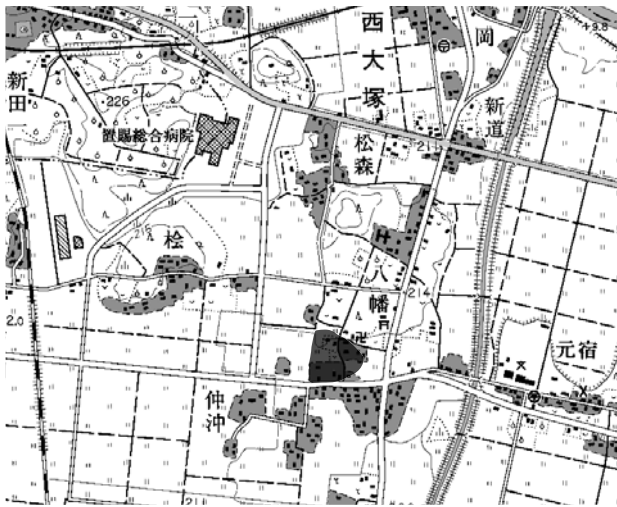


写真14 12区出土石鉢 (北から)

八幡西遺跡

遺跡番号 382-172
調査回数 第1次
所在地 山形県東置賜郡川西町大字西大塚字因幡一
北緯・東経 38度2分40秒・140度3分41秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 一般国道113号梨郷道路事業
調査面積 7000㎡
受託期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
現地調査 平成28年5月16日～12月16日
調査担当者 菊池玄輝（現場責任者）・板橋龍・長谷川大旗
調査協力 川西町教育委員会・置賜教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 奈良時代・平安時代・江戸時代・明治・大正・昭和（戦前）
遺構 竪穴建物・掘立柱建物・柱穴・土坑・土坑墓・溝・井戸・畑・水田・水場等
遺物 土師器・赤焼土器・須恵器・陶磁器・土製品・石製品・金属製品・木製品等（文化財認定箱数：50箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

八幡西遺跡は川西町の北端の郊外（大字西大塚）に所在する（図1）。遺跡は、整備が進む新潟山形南部連絡道路（国道113号バイパス事業）の一部区間（梨郷道路）に当たり、平成25年度の元宿北遺跡、同26年度の八幡一遺跡に続き、計画路線部分の発掘調査となった。発掘区は分割してA区・B区とし、排土置場の制約からB区→A区の順で調査を折り返した（図2）。来年度は町道を挟んだ東側のC区の調査（第2次）を予

定している。

遺構と遺物

地表から古代（奈良・平安時代）の遺構面までの深さは、発掘区の北側で約50cm、南側ではその倍はある。これは微地形に基づく差で、北側は微高地、南側には緩傾斜の低地が広がる。遺構は微高地上に密集し、低地に下降するほど分布は稀薄になる。

低地は一面が古代の遺物包含層（黒色粘土層）に覆われ、往時には地帯が離水し湿地化していたようだ。包含層には接合率の低い土器の破片が含まれる一方、水際^{かまどがたどせいひん}の一角では完形に復元される竈形土製品が出土した。円錐台の形態で、上面に鍋や釜などの容器を載せるための掛け口、側面には燃料をくべるためのアーチ形の焚き口が開いている。この破断した3片が不離一体で出土したが、土器の出土状況とは対照が際立つ。竈形土製品の具体的な使い方は多様性も含め検討を要するが、その場に廃棄されたかの出土状況は、例えば湯立神事のような水辺の祭祀を髣髴させる。別の地点では風字硯も出土しており、僧侶など文字をしたためるような人物との関連性もあろうか。

この時代の遺構は少数ながら、微高地上の全域に点在

している（遺構の時期推定は暫定的な処置で、今後の調査や整理等作業の進展で変更があり得る）。数棟の掘立^{ほったて}柱^{ぼしら}建物のほか、複数の土坑^{どこう}や井戸、発掘区を横断する溝などが見つかった。中には深さ 1.8m 以上、縦板組の井戸枠が内外二重に設置された井戸もある（写真 1）。

これら古代の遺構群は、相互の位置関係に有意な規則性は見いだせない。

一方、近世（江戸時代）になると当地に規則正しい配置が生まれる。屋敷の成立である。屋敷地は溝で方形に^{いじょう}囲^{みず}繞^ぼされ、区画の内部に数棟の掘立柱建物と井戸や水場（木組み・石組み）などを伴う。方形の区画と建物の主軸方位はおおむね^{しんぼく}真北に平行する。

SB243 掘立柱建物は身舎が東西 14.1m・南北 6.2m と大型で、^{さいめん}西面ははっきりしないものの、^{とうなんぼく}東・南・北の三面に廂を持つ。柱^{はしら}穴の一部には柱^{ちゆうこん}根そのものが遺存し、沈下防止措置として柱の下にかませた^{そばん}礎板も残っていた。柱の配置から復原される間取りは米沢藩の^{よねざわ}高^{たか}持^{もち}百^{ひゃく}姓^{しやう}クラスの民家に相似する。

方形の区画は複数が隣接して存在するが、その構成はさまざまで、屋敷地のほかに耕地や墓地と考えられる敷地も見つかった。耕地では低地に水田、微高地には畑が営まれ、地形に基づく土地の利用がうかがえる。墓地は^{らくもんせん}六文銭が埋納された複数の土坑^{どこう}墓から成る。その他、A区では藍色の染料が付着した木桶が埋設された土坑や切石組みの水場、低地に設置された水車などから成る空

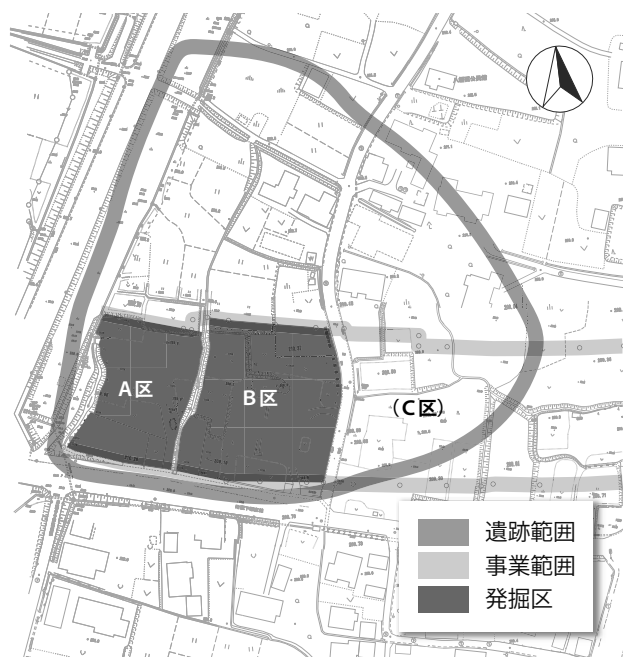


図 1 調査区概要図 (1:6,000)



写真 1 井戸枠立面

間もあり、染色（藍染）に従事した場の可能性がある。また、掘立柱建物と作業小屋と考えられる竅穴建物が併存する敷地もあり、農業以外の手工業生産も集落の生業だったのかもしれない。ただし、各区画の出土遺物には一定の時期差がある。これらの敷地は順次整備され、近代（戦前）には集落としての完成をみる。

まとめ

今年度の 1 次調査（A・B 区）の成果を振り返ると、古代（奈良時代）に集落が開かれるものの、中世には人が去ったかのように低調になり、近世になると屋敷が成立し、次第に集落が発展していく。八幡西遺跡の近世・近代集落のあり方は、現代（戦後）の「八幡西」集落に継承され、地域社会の基盤を成すものも少なくないと考える。今後は文献史料や絵図なども探索し、その内容や性格をより明らかにしていきたい。また古代集落については、元宿北遺跡^{えんめんけん}で円面硯が 3 点、八幡一遺跡で『佛法爲』の刻書須恵器^{こくしよ}が出土しており、広義の仏教関連遺物としては先述の竈形土製品・風字硯と奇しくも共通する。いずれの報告でも周辺に仏教施設の存在を想定しているが、来年度の 2 次調査の展開にその発見への期待が高まる。



写真2 A区垂直(上が北)



写真3 B区垂直(上が北)

だんやまこようあとぐん 壇山古窯跡群 (第9地点)

遺跡番号 382-157
調査回数 第1次
所在地 山形県東置賜郡川西町大字時田字虚空蔵山
北緯・東経 37度58分7秒・140度3分47秒
調査委託者 川西町地域整備課
起因事業 町道虚空蔵山西線道路改良工事
調査面積 400 m²
受託期間 平成28年4月1日～平成29年3月17日
現地調査 平成28年5月9日～7月7日
調査担当者 天本昌希(現場責任者)・三浦一樹
調査協力 川西町教育委員会・川西町西部一地区自治会
遺跡種別 窯跡
時代 奈良・平安時代
遺構 須恵器窯跡・竪穴建物・土坑
遺物 須恵器 (文化財認定箱数:70箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

壇山古窯跡群第9地点の調査は、山形大学が実施した1966年の第1～8地点の調査から、ちょうど50年目にあたる。今回の調査で検出された遺構は、400 m²の調査区で須恵器窯4基、竪穴建物1棟、土坑2基である。検出した須恵器窯は、すべて南向きの斜面につくられ、ほぼ真北を向く。この4基の窯跡を「SQ」とし、SQ3～6と呼称している。SQ3～5は半地下式の須恵器窯であり、近隣で調査されているものと規模や形状は類似する。SQ6は地下式窯で、山形県内での調査事例は少

なく、注目される。遺物は、須恵器の坏、甕を中心に整理箱70箱を得ている。

遺構

SQ3は、先端の排煙部のみの検出で、全貌は不明である。壁面や床面の強い被熱痕跡や炉壁の存在が、半地下式の窯であることをうかがわせる。

SQ4は、林道や水路など攪乱部分が多く、排煙部は削平されて失っているものの、検出水平長7.16m、最大幅1.6mを測る。斜面上部には逆U字形の雨水よけの排水溝があり、その下まで窯体が存在していたことを推測すると9m近い規模になるだろう。覆土には大量の窯壁が含まれ、壁際には天井を支えるための支柱が残っていた。樹種同定にかけたところ、窯出土の薪材とはことなるクリとの結果が得られている。また、窯の床下には甕などの破片を敷き詰め、排水用の暗渠としている。斜面上部の排水溝には、土師器の甕を合わせ口状に配置しており、地鎮等の目的がうかがわれる。

SQ5は、調査区内に排煙部から灰原まですべて検出しており、窯体の水平長は7.32m、最大幅1.26mを測る。焼成部の床傾斜は、30°にもなり、作業するにはかなりの急傾斜である。壁面だけでなく、床面にも粘土が貼られており、きれいに残存している。窯体からの出

土遺物は少ないが、斜面上位に大量の遺物が集中しており、位置関係から本遺構の灰原と考えられる。

SQ6は、地下式の須恵器窯である。窯体水平長7.64m、最大幅186mで、隣県の調査事例と比べても地下式窯としては大型の部類に入ろう。10°程度の緩い床面傾斜から奥壁は垂直に立ち上がり、煙道部は強く被熱している。斜面上部から床面までの比高差は4.19mにもなり、天井だった1.5m前後の地山がそのまま陥没していた。床面からは、大量の遺物が崩落した天井にパックされた状態で出土している。床面は、2回の作り直しが確認でき、出土遺物は、上層と下層に分けられる。

遺物

出土遺物は、高台付き坯の腰の部分に稜を作り出す、金属器模倣の稜坑りょうわんが大量に出土している。これは壇山古窯跡群の特徴であり、第1地点や隣接する米沢市大神窯跡おおがみでもこの稜坑の大量生産が確認されている。金属器模倣として出土するのは、この稜坑の身のみであり、環状つまみをもつ蓋や沈線をもつものは出土していない。

窯ごとの新旧関係は、地下式窯SQ6の天井崩落によりできた窪みが灰原となっており、斜面上位のSQ4・5から廃棄されたものと考えられることから、SQ6の廃絶後、SQ4・5が操業されたことがうかがえる。すべての窯跡で稜坑の出土が見られるが、出土遺構ごとにヘラケズリ調整の強弱やプロポーシオンに違いがあり、時期差と考えることができるだろう。これらの遺物は、従来の地域編年に照らし合わせると、8世紀末から9世紀初頭の暦年代を与えられる。

まとめ

これまで県内の須恵器窯は、半地下式のものがほとんどであり、地下式窯は8世紀前半で姿を消すと考えられてきたが、今回の調査で8世紀の後半まで伸びることとなった。窯構造の技術系譜やそれを管理した地域権力のあり方を考える上で重要な資料となるだろう。また、遺構の新旧関係から、稜坑の形態変化に時間差を考える糸口を得た。窯跡資料が年代的な基礎資料として重要なことは論をまたないが、稜坑という消長期間の限られた器種の時間差を抽出できるのであれば、これらの供給先の周辺遺跡について、更なる詳細な検討を可能にするだろう。今回の調査は、古代の東北情勢を考察する上で、重要な成果を得たといえる。今後の研究の進展に期待したい。

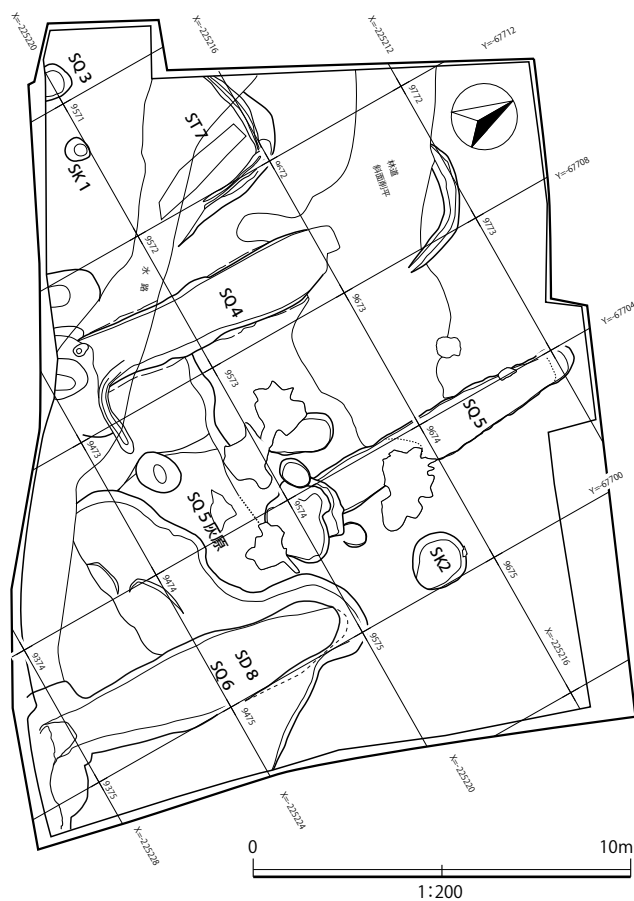


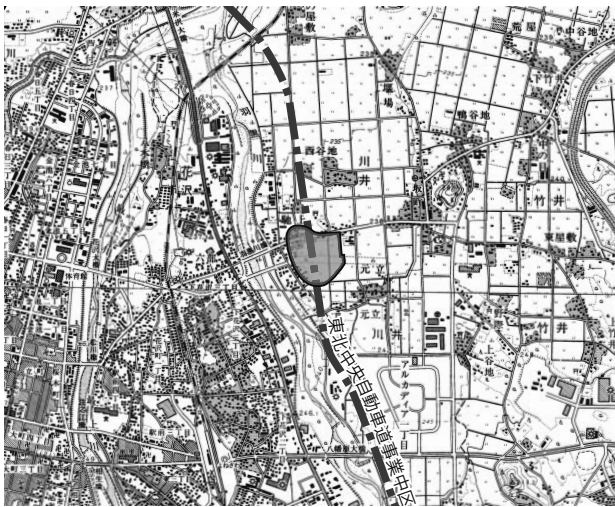
図1 遺構配置図



写真1 SQ6地下式窯完掘（南から）

はせがみ 馳上遺跡 (第8次)

遺跡番号 202-560
調査回数 第8次
所在地 山形県米沢市川井字道下
北緯・東経 37度55分21秒・140度8分18秒
調査委託者 米沢市産業部商工課・置賜総合支庁建設部道路計画課
起因事業 (仮称) 道の駅よねざわ建設事業・主要地方道米沢高畠線道路改築事業
調査面積 13,489 m²
受託期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
現地調査 平成28年4月25日～11月11日
調査担当者 渡辺和行(現場責任者)・森谷康平・安達将行・吉田満・三浦一樹・山田めぐみ
調査協力 米沢市建設部土木課・米沢市教育委員会・置賜教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 古墳時代・奈良時代・平安時代・中世
遺構 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱穴・井戸跡・河川跡
遺物 土師器・須恵器・縄文土器・石器・陶磁器・金属器・木製品(文化財認定箱数:80箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

馳上遺跡は、最上川の支流である羽黒川右岸の後背湿地上に立地する集落遺跡である。1次調査から7次調査まで、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世の遺構・遺物が確認されている。また、平安時代においては遺構の配置や出土した遺物の種類によって役所跡に related 集落と推測されている。

今回の調査では調査区中央の農道を挟み、東側と西側に調査区を分けて行った。東側から調査を開始し、天候や作業の状況を踏まえながら随時、西側の調査区へと調

査を移していった。8月31日に東側調査区が終了し、9月から西側調査区を集中して調査した。また、調査が終了した東側調査区については即時、道の駅に関わる造成工事が開始された。

遺構

東側調査区と西側調査区では検出される遺構に違いがみられた。東側調査区では蛇行する河川跡や古墳時代の竪穴住居跡、時期不明の竪穴住居のほか、溝跡やピットなどが検出された。西側調査区では古墳時代の竪穴住居が1棟、奈良時代・平安時代の竪穴住居が6棟、掘立柱建物が総柱建物・側柱建物を併せて13棟、その他に河川跡や井戸跡、柱穴・土坑・ピットなどが検出された。そのほとんどが奈良時代・平安時代に属し、遺構の密度はこの西側調査区が濃い。

まず、東側調査区であるが、明確な住居跡とみられるのは2棟の竪穴住居のみである。調査区内にピット・柱穴などは存在するが掘立柱建物を組むには至らない。また、河川跡1の東側では人々の生活痕跡を検出しえなかった。このことから馳上遺跡の集落としての東端はこの河川跡と考えられる。

なお、この河川跡1からは多くの遺物が出土した。上

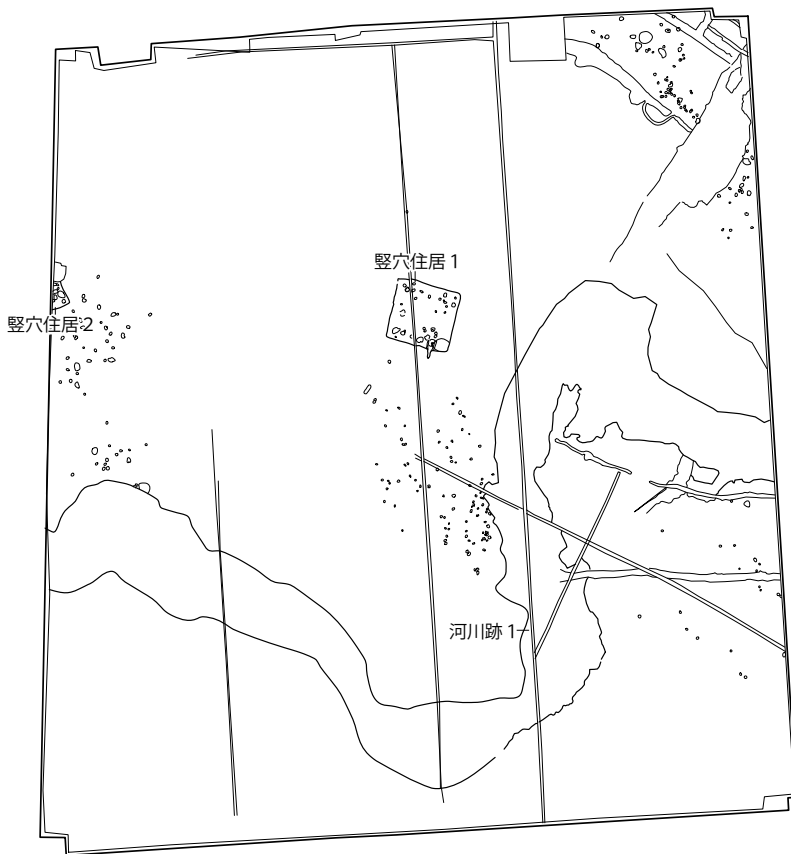
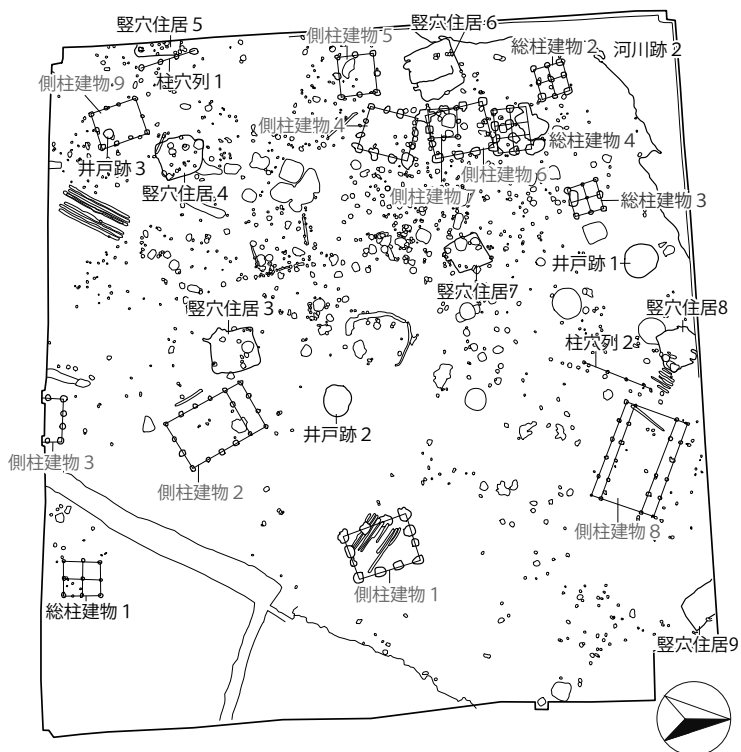


図1 主要遺構の配置図(任意縮尺)



写真1 縦穴住居1完掘状況



写真2 縦穴住居4完掘状況



写真3 側柱建物5完掘全景



写真4 総柱建物2完掘全景



写真5 総柱建物4完掘全景

層に未分解の植物遺存体が堆積しており、そこから木製品が多く出土している。その他に須恵器や土師器・黒色土器といった遺物が出土している。遺物の出土位置は北及び南側に集中しており、集落構成と何らかの関係があると考えられる。遺物の主体となる年代は平安時代と考えられる。中世の遺物は混入していないためこの河川は平安時代中には埋没したと考えられる。

竪穴住居は古墳時代の竪穴住居1と時期不明の竪穴住居2の2棟を検出した。竪穴住居1は古墳時代中期に該当する遺構で遺物はカマドとカマドの北で検出した土坑から主に出土している。カマドは北東側に備えられていた。もう一棟の竪穴住居2は住居の半分以下の検出でそのほとんどは調査区外の南側に延びている。遺物の出土はなく、時期は不明と云わざるを得ないが西側調査区で検出した奈良時代・平安時代の竪穴住居の主軸方向と一致しているため当該期の遺構の可能性がある。

西側調査区では多くの遺構が検出された。掘立柱建物や竪穴住居といった建物が多い。その他に井戸跡や柱穴列・土坑やピット、河川跡が検出されている。そのほとんどが奈良時代・平安時代に属すると考えられる。掘立柱建物については倉庫跡と考えられる総柱の掘立柱建物4棟のほか、側柱の建物や北庇の建物が検出された。また、中世に属す側柱建物8が検出されている。掘立柱建物の内側柱建物6などは柱穴形が四角を呈する。

竪穴住居9は1棟のみが古墳時代前期に属する。それ以外は奈良時代・平安時代の住居跡である。竪穴住居のカマドのほとんどは南側に備えられている。

これらの建物跡は北西側で検出された河川跡2付近に存在している。河川跡の近辺に建物を配置する傾向は第1次調査から第6次調査でも確認でき、今回の調査でも同様の傾向が確認された。また、出土遺物の年代観から竪穴住居が主体の建物構成から掘立柱建物への変遷を見て取れる。

遺物

多くの遺物が東側調査区で検出された河川跡1から出土している。須恵器や土師器といった奈良時代・平安時代の一般的な遺物の他に木製品や墨書土器、硯などといった遺物の出土もみられる。特に墨書土器や硯などは一般の集落ではあまり出土しないものである。

出土した木製品は木簡・鞍の部材・皿・横櫛・鋏・弓

などがある。木簡は2点出土している。鞍の部材は前輪もしくは後輪と考えられ、形状から荷鞍と推測している。

須恵器の坏や黒色土器も多く出土している。壺・甕などの破片も出土しているが相対的に供膳具が多いといえる。須恵器の坏や黒色土器には器に文字を書いた墨書土器と呼ばれるものも多く存在しており、書いてある文字は「王」や「大王」が多い。現在確認されているもののほぼ全てがこの河川跡からの出土で破片点数で100点以上になっている。

また、円面硯と呼ばれる円形の硯の破片も出土している。その出土点数は10点以上で同時期の遺跡の中でも多く、文字を書くという作業を行っていた集団が居たということが想起される。

その他の遺物は竪穴住居からの出土が多い。遺物は須恵器が少なく、土師器の長胴甕が多い。須恵器の器種は貯蔵具である甕や壺がほとんど出土せず、坏、もしくは碗が一つの住居につき1点もしくは2点出土する程度である。各住居とも供膳具が少なく、煮炊き具が多いことが特徴として挙げられる。貯蔵具が少ないことから各住居に水を貯蔵するという行為はせず、集落内の井戸・河川などでその都度必要な量を確保し、使用していたと考えられる。

調査区全体で見た遺物の種類ごとの量は、供膳具である坏類が多く、次に煮炊き具、そして貯蔵具という傾向が捉えられる。

まとめ

今回の調査では以前の調査でも指摘されていた以下のことについて再確認が出来た。

- ①竪穴住居から掘立柱建物へという変遷。
- ②河川跡の近辺に倉庫や建物跡を配置するという集落の構成。
- ③木簡や墨書土器・円面硯といった一般の集落であまり出土しないとされている遺物の出土。

また、③の遺物は当時の役所に関する遺跡であることも再肯定した形といえる。

新しい知見としては遺跡の東端が河川跡1だと確認出来たことにある。この河川跡の近辺は遺構も疎らであり、河川跡の東側については遺構をほぼ確認出来なかった。

これらを踏まえ、今後は遺跡の性格についてもう少し詳細に検討していく必要がある。



写真6 西側調査区完掘状況



写真7 河川跡1出土木製品：鞍の部材



写真8 河川跡1出土土器類



写真9 側柱建物2完掘全景

もとでてきた 元立北遺跡

遺跡番号 202-688
調査回数 第1次
所在地 山形県米沢市大字川井字元立
北緯・東経 37度55分21秒・140度8分18秒
調査委託者 米沢市産業部商工課
山形県置賜総合支庁建設部道路計画課
起回事業 (仮称) 道の駅よねざわ
主要地方道米沢高畠線道路改築事業
調査面積 1,000 m²
受託期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日
現地調査 平成28年4月25日～7月13日
調査担当者 渡辺和行 (現場責任者)・森谷康平・
安達将行・吉田満・三浦一樹・山田めぐみ
調査協力 米沢市建設部土木課・米沢市教育委員会・置賜教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 縄文時代・古墳時代・奈良時代・平安時代
遺構 竪穴住居跡・河川跡・溝跡・土坑・柱穴・性格不明遺構
遺物 縄文土器・土師器・須恵器・石製品・木製品・金属製品 (文化財認定箱数: 11箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

元立北遺跡は、最上川の支流である羽黒川右岸の後背湿地上に位置し、現況は田園が広がっている。標高は約240mを測る。平成27年度に発見・登録された遺跡で、遺跡範囲は南北約40m、東西約60mを測る。

遺構と遺物

調査区は事業区域の東側に位置し、調査対象範囲は南北約40m、東西約30mの台形状を呈する。遺構検出面は表土下約30～40cmで確認された。

確認された遺構・遺物の年代は主に古墳時代である。僅かに縄文時代、奈良・平安時代の遺構・遺物も確認されている。調査区は竪穴住居跡2棟と河川跡で、調査区の約半分の面積を占めている状況で、残りの半分では小規模な溝跡や土坑、柱穴等が広く分布している。

調査区中央部で検出されたST51竪穴住居跡は大型の住居で約8.1×7.6mの方形を呈し、深さは約20～30cmを測る。カマドは南辺に位置する。東側に位置するST60竪穴住居跡は、調査区外へ延び全体は把握でき

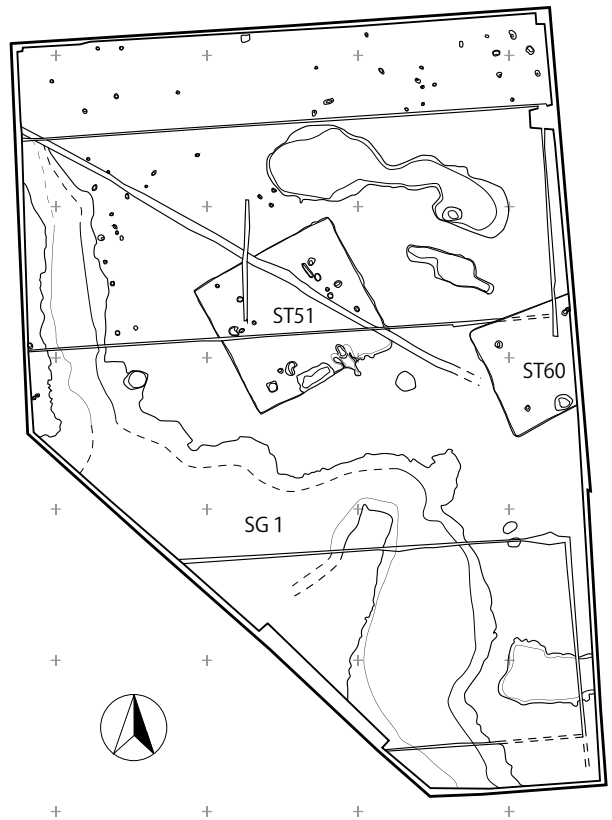


図1 遺構配置図 (S=1/400)

ないが、ST51 竪穴住居跡に比べ規模が小さいものの、主軸方向は類似している。ST51 竪穴住居内の床面には炭化した木材が中央から放射状に横たわる状況や焼土が確認されることから、火災のため焼け落ちた焼失住居と推測される。

出土遺物は2点の須恵器ハソウが注目される。陶邑窯跡群（大阪府堺市）の産出と思われるが定かではない。形状は共に陶邑編年のTK23（古墳時代中期後半：5世紀後半）に相当する。また口縁部から頸部にかけて、意図的に打ち欠いたような割れ方を呈している。土師器の器種には坏・甕・壺・甑が確認されている。僅かではあるが黒色土器（土師器坏）の出土もあり、須恵器ハソウの年代と相違ない様相である。他に、石製模造品や大型の砥石、鉄滓等も出土している。

SG 1 河川跡は調査区南西部に位置する。調査区南側から北西方向へ蛇行しながら流れている。最大幅約7.2m、深さ約60～80cmを測る。河川跡からは縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の遺物が出土している。

河川跡出土の縄文時代の出土遺物は、縄文土器の破片資料のみで、全体を把握できる資料は皆無である。器種は深鉢・鉢があり、年代は晩期（後葉）である。古墳時代については、ST51 竪穴住居跡の年代と同様、中期頃の土師器と4点の石製模造品が出土している。石材は緑色片岩であろう。形状は2つの穿孔を有することから、鏡を模造したものと推測される。ST51 竪穴住居跡で出土した石製模造品も同じ形状を呈する。奈良・平安時代については、時期幅のある年代の土師器・須恵器が出土している。

まとめ

今回の調査では、古墳時代中期頃の集落跡を確認した。西側に位置する馳上遺跡でも同時期の集落が営まれており、広く同じ集落域と考えることもできるが、今後詳しい検討が必要である。ST51 竪穴住居跡からは他地域との交流を示す須恵器ハソウ、並びに石製模造品、大型の砥石、鉄滓など多種にわたる遺物が出土している。一般的な住居とは異なり、工房などの施設利用が考えられるだろう。また、縄文時代、奈良・平安時代の遺物を確認できたことで、当遺跡または周辺に集落跡が存在していたことが推測される。



写真1 調査区全景（東から）



写真2 ST51 竪穴住居跡完掘状況（西から）



写真3 須恵器ハソウ出土状況（ST51 竪穴住居跡）



写真4 石製模造品（ST51 竪穴住居跡）

2. 普及・啓発・研究等業務

(1) 研修等

①全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣

ア 第1回役員会

期 日 平成28年5月12日～5月13日
 会 場 千葉県千葉市（ホテルポートプラザちば）
 派遣職員 専務理事 三浦秋夫、事務局長 黒坂雅人

イ 総会

期 日 平成28年6月16日～6月17日
 会 場 鹿児島県霧島市（ホテル京セラ）
 派遣職員 専務理事 三浦秋夫、事務局長 黒坂雅人

ウ ブロック活動

北海道・東北地区会議

期 日 平成28年10月13日～10月14日
 会 場 福島県福島市（コラッセふくしま）
 派遣職員 専務理事 三浦秋夫、事務局長 黒坂雅人、専門調査研究員 齋藤健

エ 第2回役員会

期 日 平成28年12月1日～12月2日
 会 場 東京都墨田区両国（東京都江戸東京博物館）
 派遣職員 専務理事 三浦秋夫、業務課長 伊藤邦弘

オ 研修会

期 日 平成28年9月29日～9月30日
 会 場 山形県山形市（ホテルメトロポリタン山形）
 派遣職員 専務理事 三浦秋夫、事務局長 黒坂雅人、業務課長 伊藤邦弘 他

②埋蔵文化財担当者専門研修への派遣

ア 地質考古調査課程

期 日 平成28年8月29日～9月2日
 会 場 奈良文化財研究所
 派遣職員 調査研究専門員 齊藤主税

イ 土器・陶磁器調査課程

期 日 平成28年11月14日～11月18日
 会 場 奈良文化財研究所
 派遣職員 主任調査研究員 菊池玄輝

ウ 文化財担当者特別研修「報告書公開活用課程」

期 日 平成29年3月13日～3月15日
 会 場 奈良文化財研究所
 派遣職員 主任調査研究員 高桑登

(2) 普及啓発

①センター公開事業

ア 「子どもミュージアム」

本年度より、埋蔵文化財センター単独事業として実施。
 山形県内の遺跡から見つかった代表的な出土品を、児童・生徒の夏季休業中に展示した。
 併せて、体験活動を取り入れて実施した。

期 間 平成28年7月19日（火）～8月19日（金）
 会 場 山形県埋蔵文化財センター
 内 容 展示：「やまがたの昔むかし」
 体験：火起こし、縄文クッキー、弓矢、ミュージアムで絵を描こう
 入場者数 29名



展示(縄文時代のコーナー)



縄文クッキー体験



火起こし体験

イ 平成28年度 山形県発掘調査速報会2016

山形県教育委員会主催、(公財)山形県埋蔵文化財センター他3市教委共催で実施した。センターが平成28年度に発掘調査を行った遺跡の内、5遺跡5件の調査成果と、山形市教育委員会・米沢市教育委員会・上市市教育委員会の各発掘調査成果を報告した。

期 日 平成29年2月26日(日)

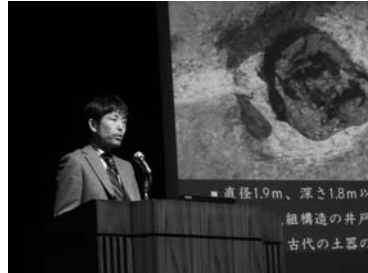
会 場 山形県生涯学習センター 遊学館

内 容 調査の状況をプロジェクターを使って紹介し、併せて出土品の展示・解説を実施した。

入場者数 約120名



発表会場



八幡西遺跡の報告



出土品の展示・解説

②考古学講座

期 日 平成29年2月22日(水)

会 場 山形県埋蔵文化財センター

内 容 講演 職員研修として計画した講演会を、一般にも開放して実施した。

演題：『中国古代帝王陵の変遷及び中日古代墳墓の関連性について』

講師：劉 振東 氏(東北学院大学客員教授)、佐川正敏 氏(東北学院大学教授)

参加者数 35名



③展示協力

特別テーマ展『遺跡今昔物語—いせきこんじゃくものがたり—』

期 日 平成28年6月11日～9月11日

会 場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

内 容 主な建築物が造られる前に調査した遺跡の様子、出土した遺物と共に現在の建造物の写真なども展示し、時代の変化の様子を紹介。

(城南一丁目遺跡、下叶水遺跡等で確認された遺構・遺物及び解説パネルと、同地点の現在の様子を表したパネル等を併せて展示)



④来所者

ア.見学・研修等

No.	来所者	期 日	人数	内 容
1	秋田県民	2016年4月20日	1	施設見学
2	山形市民	2016年4月27日	1	施設見学
3	上山市立南小学校 5年生	2016年5月2日	118	施設見学、施設利用（講話）
4	写真家 他	2016年5月6日	3	施設見学、施設利用（取材）
5	平成28年度 第1回市町村文化財担当者研修会	2016年5月13日	28	施設見学、施設利用（講話）
6	長井市教育委員会	2016年5月24日	4	施設利用（写真撮影研修）
7	山形市立蔵王第一中学校 2年生	2016年5月24～26日	3	職場体験
8	酒田市教育委員会	2016年5月31日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
9	上山市地区公民館合同研修会	2016年6月10日	28	施設見学
10	平成28年度 第2回市町村文化財担当者研修会	2016年6月24日	21	遺跡見学、施設利用（実地研修） 〈八幡西遺跡〉
11	上山市キャリアスタートウィーク	2016年7月5～7日	2	職場体験
12	酒田市教育委員会	2016年7月12日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
13	大蔵村教育委員会 「おおくら松の実塾」	2016年7月14日	31	遺跡見学、施設利用（発掘体験） 〈上竹野遺跡〉
14	米沢市上杉博物館	2016年7月19日	2	施設利用（赤外線写真撮影）
15	山辺町文化財保護審議会	2016年7月21日	9	遺跡見学〈馳上遺跡〉
16	山形県立 うきたむ風土記の丘考古資料館	2016年7月27日	3	施設利用（写真撮影研修）
17	川西町学校教育研修所 社会科専門部会	2016年7月29日	14	遺跡見学、施設利用（発掘体験） 〈八幡西遺跡〉
18	山形県立 うきたむ風土記の丘考古資料館	2016年8月5日	4	施設利用（写真撮影研修）
19	東北学院大学 学生	2016年8月22・23日	1	資料見学
20	みちのおくの芸術祭 やまがたビエ ンナーレ2016 公式ツアー	2016年9月10日	18	施設見学、施設利用（講話）
21	山形市民	2016年9月13日	1	施設見学
22	中山地区会	2016年9月25日	—	施設利用（放送設備一式）

No.	来所者	期 日	人数	内 容
23	川西町教育委員会 「川西町文化財巡り」	2016年10月8日	40	遺跡見学〈八幡西遺跡〉
24	中山地区会	2016年10月9日	—	施設利用（放送設備一式）
25	山形県立米沢興譲館高等学校 SSH事業「異分野融合サイエンス」	2016年10月12日	30	施設見学、施設利用（講話）
26	兵庫県民	2016年10月13日	1	施設見学
27	東京都民	2016年10月14日	1	施設見学
28	山形市本沢郷土研究会	2016年10月17日	4	施設利用（出土遺物の鑑定）
29	神奈川県民	2016年10月20日	1	施設見学
30	会津若松市教育委員会	2016年10月21日	2	施設利用（出土遺物の鑑定）
31	山形市本沢郷土研究会	2016年10月24日	4	施設利用（出土遺物の鑑定）
32	尾花沢市玉野地区公民館 （玉野歴史保存会）	2016年10月28日	15	施設見学
33	南陽市教育委員会	2016年11月7日	4	施設利用（写真撮影研修）
34	米沢市教育委員会	2016年12月15日	1	施設利用（赤外線写真撮影）
35	大江町教育委員会	2016年12月21日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
36	米沢市教育委員会	2016年12月22日	2	施設利用（出土遺物の鑑定）
37	寒河江市教育委員会	2017年1月26日	2	施設利用（出土遺物の鑑定）
38	米沢市教育委員会	2017年1月27日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）
39	N H K山形放送局	2017年2月14日	3	施設利用（番組取材）
40	上山市教育委員会	2017年2月16日	2	施設利用（出土遺物の鑑定）
41	九州歴史資料館	2017年2月22日	1	資料見学
42	仙台市縄文の森広場	2017年3月13日	1	資料見学
43	福島県民	2017年3月16日	1	施設見学
44	酒田市教育委員会	2017年3月30日	1	施設利用（出土遺物の鑑定）

イ.図書閲覧

No.	来所者	期 日	閲覧目的
1	長井市教育委員会 職員	2016年11月29日	研究のため

ウ.資料調査

No.	来所者	期 日	対象遺跡
1	九州国立博物館 職員	2016年4月27日	亀ヶ崎城跡、山形城三の丸跡 城南一丁目遺跡
2	福島県文化財センター 白河館 職員	2016年5月26日	亀ヶ崎城跡
3	長井市教育委員会、長井市史編纂委員	2016年5月24・25日	岡ノ台遺跡、黒藤館跡、小山遺跡 庚壇遺跡、空沢遺跡、東千作遺跡
4	弘前大学人文学部 学生	2016年6月16日	西海渕遺跡、羽黒神社西遺跡
5	山形大学人文学部 教員	2016年6月28日	今塚遺跡
6	慶應大学民族考古学研究室 学生	2016年7月26・27日	太郎水野2遺跡
7	慶應大学民族考古学研究室 学生	2016年8月12～16日	太郎水野2遺跡
8	長井市教育委員会、長井市史編纂委員	2016年10月5日	廻り屋遺跡、堀端遺跡、埴の上遺跡 蛇崩遺跡、小山遺跡
9	東北大学 名誉教授	2016年10月5・6日	宮の前遺跡
10	南相馬市教育委員会 職員	2016年12月2日	オサヤズ窯跡、泉森窯跡
11	米沢市教育委員会 職員	2017年1月27日	西谷地 b 遺跡
12	N H K山形放送局 職員	2017年2月8日	下長橋遺跡

⑤調査説明会

No.	市町村	遺跡名	開催日	遺跡種別	参加者数
1	川西町	壇山古窯跡群第9地点	2016年6月18日	窯跡	60
2	川西町	八幡西遺跡 第1回	2016年8月20日	集落跡	60
3	大蔵村	上竹野遺跡第2次	2016年9月24日	集落跡	60
4	米沢市	馳上遺跡第8次・元立北遺跡	2016年11月3日	集落跡	70
5	川西町	八幡西遺跡 第2回	2016年11月23日	集落跡	52

⑥職員派遣等

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内容
1	村山市文化財保護委員会	村山市役所	阿部 明彦	2016年 4月26日	村山市文化財保護委員会
2	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤 主税	2016年 5月18日	第1回舟形町文化財保護委員会
3	山辺町教育委員会	山辺町役場	黒坂 雅人	2016年 5月20日	山辺町文化財保護審議会
4	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	大場 正善	2016年 5月21日	「勾玉・弓矢・石器を作ろう！！」 石器作り技術指導
5	山形市教育委員会	霞城公園管理事務所	高桑 登	2016年 5月24日	山形城本丸・二の丸跡出土陶磁器調査 指導
6	山形県地域史研究協議会	寒河江市文化センター	須賀井新人	2016年 6月5日	第42回総会・研究大会（寒河江大 会）
7	山形県教育委員会	文化財・生涯学習課	齊藤 主税	2016年 6月6日	平成28年度 埋蔵文化財調整会議
8	舟形町教育委員会	西ノ前遺跡、猿羽根楯跡	齊藤 主税	2016年 6月21日	平成28年度 国、県指定文化財巡回 指導
9	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤 主税	2016年 6月28日	平成28年度 舟形町「縄文の女神ま つり」展示土偶の打合せ
10	大蔵村教育委員会	大蔵村 上竹野遺跡	菅原 哲文	2016年 7月14日	『おおくら松の実塾』説明及び発掘 体験指導
11	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	大場 正善	2016年 8月6日	「勾玉・弓矢・石器を作ろう！！」 石器作り技術指導
12	舟形町教育委員会	B & G 舟形海洋センター	菅原 哲文	2016年 8月7日	縄文の女神まつり記念講演
13	東根市教育委員会	東の杜資料館	阿部 明彦	2016年 8月9日	埋蔵文化財等考古資料の整理 現地 指導
14	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	大場 正善	2016年 8月10日	School of JOMON 石器作り実演・講演
15	中山町教育委員会	中山町中央公民館	伊藤 邦弘	2016年 8月10日	中山町文化財保護審議会
16	北村山地域史研究会	尾花沢市役所共同福祉施 設	高桑 登 阿部 明彦	2016年 9月10日	「山形学」地域連携講座 『陸上交通「十字路」の豊かな歴史を 探る』
17	長井市史編纂委員会	長井市 小桜館	菅原 哲文	2016年 9月16日	長井市史編集委員会
18	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記 の丘考古資料館	水戸部秀樹	2016年 9月25日	第18期考古学セミナー 『縄文時代の植物利用』 「押出遺跡の植物利用」
19	最上地域観光協議会	山形県立博物館等、各所	阿部 明彦	2016年 10月1・2日	国宝土偶「縄文の女神」のふるさと を訪ねて 解説

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内容
20	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	小林 圭一	2016年 10月9日	第18期考古学セミナー 『縄文時代の植物利用』 「高瀬山遺跡の水場遺構と植物利用」
21	山形市教育委員会	山寺芭蕉記念館	高桑 弘美	2016年 10月14日	山形市文化財保護委員会現地視察
22	舟形町教育委員会	山形市、山辺町 最上義光関連施設	齊藤 主税	2016年 10月20日	平成28年度舟形町文化財保護委員会研修視察
23	山形市教育委員会	史跡山形城二の丸良櫓跡	高桑 登 大場 正善	2016年 10月25日	山形城二の丸土塁・良櫓跡調査区の空撮、及びオルソ画像作成用写真撮影
24	村山市教育委員会	村山市役所	阿部 明彦	2016年 10月26日	村山市文化財保護審議会委員辞令交付及び審議会
25	山形考古学会	遊佐町 遊楽里	阿部 明彦 菅原 哲文 小林 圭一	2016年 10月29・30日	山形考古学会 研究大会
26	山形市教育委員会	山形市役所	高桑 弘美	2016年 11月1日	山形市文化財保護委員会
27	大石田町教育委員会	大石田町大字駒籠地内駒籠楯跡	阿部 明彦	2016年 11月1～11日	平成28年度駒籠楯跡発掘調査指導
28	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	大場 正善	2016年 11月3日	「勾玉・弓矢・石器を作ろう！！」 石器作り技術指導
29	山形県教育委員会	山形県庁	高桑 弘美	2016年 11月4日	山形県文化財保護審議会
30	松山の宝推進協議会	松山城址館	高桑 登	2016年 11月5日	出羽庄内城歩き事はじめ！！ 解説
31	明治地区文化祭実行委員会	明治コミュニティセンター	小林 圭一	2016年 11月6日	明治地区文化祭講演会 講演
32	山形県立博物館	山形県立博物館	高桑 弘美	2016年 11月12日	平成28年度考古学講座 「古代の村山」 『墨書土器が語る古代の暮らし』
33	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	伊藤 邦弘	2016年 11月16日	平成28年度第1回運営審議会
34	大石田町教育委員会	大石田町 駒籠楯跡	阿部 明彦	2016年 11月22日	平成28年度駒籠楯跡発掘調査指導
35	山形県立博物館	山形県立博物館	阿部 明彦	2016年 12月10日	平成28年度考古学講座 「古代の村山」 『炉鍛冶施設をもつムラ』
36	山形県立博物館	山形県立博物館	伊藤 邦弘	2017年 1月21日	平成28年度考古学講座 「古代の村山」 『瓦を供給した生産跡』
37	東根地区地域作り実行委員会	東根地区公民館	阿部 明彦	2017年 2月2日	地域づくり地区民の集い 事前打合わせ

No.	依頼者名	派遣場所	派遣職員名	期日	内容
38	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	天本 昌希 菊池 玄輝 渡辺 和行	2017年 2月5日	考古資料検討会 調査報告
39	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館	伊藤 邦弘	2017年 2月7日	平成28年度第2回運営審議会
40	舟形町立舟形小学校	舟形町立舟形小学校	齊藤 主税	2017年 2月8日	平成28年度 第2回学校評議員会
41	東根地区地域作り実行委員会	東根地区公民館	阿部 明彦	2017年 2月11日	地域づくり地区民の集い 講演
42	山形市教育委員会	山形市役所	高桑 弘美	2017年 2月14日	山形市文化財保護委員会
43	山形県教育庁文化財・生涯学習課	山形県生涯学習センター遊学館	伊藤 邦弘 菅原 哲文 菊池 玄輝 天本 昌希 渡辺 和行 吉田 満 板橋 龍 三浦 一樹	2017年 2月26日	「山形県発掘調査速報会」2016 調査報告
44	舟形町教育委員会	舟形町中央公民館	齊藤 主税	2017年 3月1日	第2回舟形町文化財保護委員会
45	長井市教育委員会	長井市生涯学習プラザ	菅原 哲文	2017年 3月4日	市史編纂歴史講座 講演
46	(公財)仙台市市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館	仙台市富沢遺跡保存館	大場 正善	2017年 3月5日	平成28年度ボランティア実技研修実技指導
47	東北学院大学	福岡県太宰府市ふれあい歴史館	水戸部秀樹	2017年 3月5～7日	共同研究「太宰府天満宮・安楽寺跡の瓦調査」に係る資料調査
48	東北学院大学	東北学院大学 ホーイ記念館	水戸部秀樹	2017年 3月10日	国際学術セミナー 研究報告
49	北村山地域史研究会	楯岡地域市民センター	菊池 玄輝	2017年 3月12日	北村山の歴史研究報告会 調査報告
50	東根市教育委員会	東根市役所	阿部 明彦	2017年 3月17日	東根市文化財保護審議会
51	山形県教育委員会	村山総合支庁	高桑 弘美	2017年 3月23日	山形県文化財保護審議会
52	長井市史編纂委員会	長井市民文化会館	菅原 哲文	2017年 3月24日	長井市史編集委員会

⑦資料貸出

No	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	山辺町立相模小学校 教員	山辺町相模地区郷土史研究会の資料として	2016年4月12日 ～4月25日	西ノ前遺跡、今塚遺跡 万治ヶ沢遺跡	12
2	山形大学附属小学校	歴史授業の資料として	2016年4月15日 ～4月28日	百川田遺跡、熊ノ前遺跡	5
3	舟形町教育委員会	舟形町歴史民俗資料館展示のため	2016年5月16日 ～11月30日	西ノ前遺跡	41
4	九州国立博物館	九州国立博物館文化交流展示（平常展）におけるトピック展示「有田焼創業400年記念 旧家の生活を彩った器ー古伊万里（仮）」に展示するため	2016年7月12日 ～11月30日	亀ヶ崎城跡、山形城三の丸跡 城南一丁目遺跡	20
5	(公財)福島県文化振興財団	開館15周年記念指定文化財展「城跡の考古学」に係る展示パネル、ポスター、チラシ、広報誌などに使用するため	2016年7月10日	亀ヶ崎城跡 写真資料	3
6	舟形町教育委員会	縄文の女神まつり展示のため	2016年8月1日 ～8月15日	原の内A遺跡、西海淵遺跡 中川原C遺跡	45
7	長井市教育委員会	長井市古代の丘資料館企画展「山のどうぐ・漁のどうぐ」の展示と図録掲載のため	2016年7月25日 ～11月18日	熊ノ前遺跡、東興野B遺跡 町下遺跡、川口遺跡 宮の前遺跡、藤治屋敷遺跡 下叶水遺跡、川内袋遺跡	164
8	山形大学附属小学校	歴史授業の資料として	2016年7月16日 ～7月22日	熊ノ前遺跡	3
9	日本考古学協会 国際交流委員会	W A C - 8 でのポスター展示のため	2016年7月25日 ～9月2日	太郎水野2遺跡 写真資料	4
10	山形県教育庁 文化財・生涯学習課	県立うきたむ風土記の丘考古資料館の企画展示のため	2016年7月26日 ～12月16日	川口遺跡、渡戸遺跡 高瀬山遺跡、押出遺跡	13
11	米沢市上杉博物館	特別展「伊達市と上杉氏ー鶴山城跡史跡指定記念ー」に展示のため	2016年7月29日 ～11月27日	荒川2遺跡	5
12	(公財)福島県文化振興財団	まほろん15周年記念指定文化財展「城跡の考古学」に展示のため	2016年9月13日 ～1月20日	亀ヶ崎城跡	15
13	山形県立 うきたむ風土記の丘考古資料館	第24回企画展の図録及びパネルに掲載するため	2016年9月17日	川口遺跡、渡戸遺跡 高瀬山遺跡、押出遺跡 各写真資料	13
14	山形県立博物館	平成28年度プライム企画展「よみがえる古の大寺院『寶幢寺』至宝展」において使用するため	2016年9月24日 ～12月4日	上敷免遺跡	1
15	山形県立 うきたむ風土記の丘考古資料館	第X I 期うきたむ学講座の資料検討会展示資料として	2017年2月9日 ～2月14日	米沢城跡、荒川2遺跡 堤屋敷遺跡、飛泉寺跡	489
16	米沢市上杉博物館	常設展示における米沢城二の丸跡展示装置の解説映像として使用するため	2017年3月8日 ～3月31日	米沢城跡 写真アルバム	5

⑧資料掲載許可

No	貸出先	借用目的	資料名	数量
1	株式会社ランズ	『日本歴史大地図(仮題)』に掲載のため	山田遺跡 写真資料	2
2	中部大学 教員	学術論文への資料として掲載のため	中村A遺跡 実測図	2
3	株式会社アルカ	日本考古学協会総会資料への広告として掲載のため	清水西遺跡 実測図	40 ページ
4	日本考古学協会 会員	平成28年度日本考古学協会弘前大会第3部会の資料集に掲載のため	鶴ヶ岡城跡 写真資料	6
5	(公財)福島県文化振興財団	開館15周年記念指定文化財展「城跡の考古学」に係るポスター、チラシ、広報誌などに使用するため	亀ヶ崎城跡 写真資料	3
6	金城学院大学 教員	「続 ムシの考古学」(雄山閣)のなかの、「押出遺跡から発見された昆虫から探る古環境」(仮題)の紹介文中に使用するため	押出遺跡 写真資料	2
7	長井市教育委員会	長井市古代の丘資料館企画展「山のどうぐ・漁のどうぐ」の図録掲載のため	熊ノ前遺跡、東興野B遺跡 町下遺跡、川口遺跡 宮の前遺跡、藤治屋敷遺跡 下叶水遺跡、川内袋遺跡	164
8	山形考古学会 会員	山形考古学会遊佐大会の資料とするため	上竹野遺跡 写真資料	33
9	楯山郷土史愛好会	『遺跡と泉の里たてやま(仮)』に掲載のため	お花山古墳群 写真資料	14
10	東北芸術工科大学	「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2016」で実施するツアーのガイドブックに掲載のため	宮の前遺跡、小反遺跡 熊ノ前遺跡、原の内A遺跡 西海淵遺跡 各写真資料	34
11	(株)学研プラス	雑誌『歴史群像』内の記事に掲載のため	亀ヶ崎城跡 写真資料	1
12	(株)小学館出版局	(株)小学館ホームページ「BOOK PEOPLE」内の記事に掲載のため	亀ヶ崎城跡 写真資料	3
13	(株)小学館出版局	(株)小学館ホームページ「BOOK PEOPLE」内の記事に掲載のため	亀ヶ崎城跡 写真資料	3
14	(株)小学館出版局	(株)小学館ホームページ「BOOK PEOPLE」内の記事に掲載のため	亀ヶ崎城跡 写真資料	1
15	山形県立 うきたむ風土記の丘考古資料館	考古資料検討会チラシに掲載のため	馳上遺跡 写真資料	1
16	(株)ジャパン通信情報センター	「文化財発掘出土情報」誌の「各地の動向」に掲載のため	壇山古窯跡群 調査説明資料	1
17	(株)小学館出版局	(株)小学館ホームページ「BOOK PEOPLE」内の記事に掲載のため	亀ヶ崎城跡 写真資料	2
18	一般社団法人日本考古学協会	『日本考古学年報』68(2015年度版)に掲載のため	押出遺跡 写真資料	1
19	(株)山川出版社	書籍『土偶のリアル』(譽田亜紀子著)に掲載のため	西ノ前遺跡 写真資料	1
20	古唐津ミニミニ歴史資料館	「肥前を窯業大国にした朝鮮陶工の歴史-唐津・伊万里」に掲載のため	亀ヶ崎城跡 写真資料	2
21	NHK山形放送局	番組取材、放送のため	下長橋遺跡 土器・礫 写真資料	1式 1
22	株式会社碧水土	『週刊ビジュアル戦国王』43号「山形城」ページに掲載のため	山形城三の丸跡 写真資料	1
23	(株)ジャパン通信情報センター	「文化財発掘出土情報」誌の「各地の動向」に掲載のため	八幡西遺跡 調査説明資料	2
24	米沢市上杉博物館	常設展示における米沢城二の丸跡展示装置の解説映像として使用するため	米沢城跡 写真資料	10
25	南陽市民	共著「ふるさと中川誌」に掲載のため	加藤屋敷遺跡、天矢場遺跡 写真資料 等	5

⑨出版物

ア.調査説明会資料

書名	発行年月日
壇山古窯跡群 第9地点	2016年6月18日
八幡西遺跡(第1回)	2016年8月20日
上竹野遺跡 第2次	2016年9月24日
馳上遺跡 第8次・元立北遺跡	2016年11月3日
八幡西遺跡(第2回)	2016年11月23日

イ.調査報告書

シリーズNo.	書名	発行年月日
225	馳上遺跡第2～4・6次発掘調査報告書	2017年3月31日
226	蟬田遺跡第1・2次発掘調査報告書	2017年3月31日
227	押出遺跡第6次発掘調査報告書	2017年3月31日
228	壇山古窯跡群第9地点発掘調査報告書	2017年3月14日

ウ.その他

資料名	発行年月日
平成27年度 年報	2016年5月1日
研究紀要 第9号	2017年3月31日

⑩ホームページ

主な項目と内容は以下のとおりです。

- ・発掘調査遺跡一覧 発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡の紹介
- ・発掘調査速報 調査期間中、遺跡ごとの調査状況を毎週更新して紹介
- ・整理作業ピックアップ 整理作業中の遺跡から、話題を取り上げて紹介
- ・イベント情報 埋蔵文化財センター考古学講座、調査説明会、各種イベント情報の提供
- ・センター刊行物案内 調査報告書、発掘調査説明資料などの刊行物等の紹介
- ・埋文やまがた Web版広報誌「埋文やまがた」を紹介するとともに、これまでに刊行したバックナンバーの閲覧とダウンロード
- ・センター概要 センターの紹介や、情報公開制度に基づいた、センター情報の提供

(3) 情報処理

収蔵図書データベース 新収蔵図書 1, 626冊のデータ入力実施(File Maker Pro使用)

ISSN 1341-397X

年 報

平成28年度

2017年5月1日 発行

発 行 公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷5608番地
☎023-672-5301(代)

印 刷 田宮印刷株式会社



Yamagata Archaeology Center

当センターの記章として
いるこの図柄は、

Yamagata
Archaeology
Center

の3つの頭文字をあしらっ
たものです。特にYは、国
宝「縄文の女神」をイメー
ジしています。